

愛媛大学教育学部

第114号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



学部長就任のご挨拶

愛媛大学
教育学部長

三浦 和尚

平成二十四年四月から、教育学部長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

私が愛媛大学教育学部に赴任したのは平成三年で、河淵計明学部長の時代でした。直前に中学一年の担任をしており、クラスの子供たちに後ろ髪をひかれながら、教育学部の玄関を入りました。タイサンボクの立派な並木に驚いたことが、そんなに遠い記憶ではないような気がするのですが、あれから二十一年、お腹のあたりばかり成長しています。中身がどうなのかは定かではありません。

以来、国語教育学の専門として、学生の教育、地域との連携等に努めてきたつもりです。特に、愛媛

県の国語教育の諸団体をはじめとする学校関係者には大変良くしていただき、私自身の研究のベースを作ることにつながったと思っています。この関係が、この職にあつてさらに強いものになっていくことを心から願っています。

大学時代の同級生は皆定年退職の時を迎え、それぞれの新しい生活に入っていますから、今回の立場の変化は、これを区切りになんとした仕事をせよというメッセージなのかもしれません。私自身、この任に堪える器だとは思っていませんが、何とか力を尽くしていきたいと思っております。

さて、愛媛大学は、「愛媛大学憲章」において、「地域に立脚する大学として、地域に役立つ人材、地域の発展を牽引する人材の養成」を謳っています。教育学部はまさにその理念を具現化する存在でありたいと思っておりますし、各都道府県に設置された教育学部は、本来そうあるべきものでしょう。

そういった方向性の一つとして、教育学部は、平成十四年以来、

愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、今治市教育委員会、東温市教育委員会、伊予市教育委員会、松前町教育委員会と連携協力の覚書を交わし、地域と一体となりながら、地域の教育の向上、教育研究の推進、教員養成の充実を進めてまいりました。とりわけ、愛媛県、松山市、今治市とは、日常的な密接な連携を続けることができています。

この精神は、連携協力の覚書を交わしているか否かを問わず、また、学校教育であるか否かを問わず、愛媛県下の「教育」にかかわる方々・団体に共有されるものです。「愛媛県という」地域に立脚し、地域と連携する教育学部であり、さらにそこから大きく飛躍する存在でありたいと思っております。

しかしながら、教育を取り巻く状況は、必ずしも楽観的ではありません。子供たちの現状がどの程度改善されたのか。例えば、いじめや不登校はどうか、学習改善が叫ばれながら、本当に今日的な学力を身につける方向に動いているのか、教員が成長しつつ本当にその力を発揮できるような学校環境・社会状況にあるのかなど、いまだに課題は山積しているでしょう。「教育は国家の百年の計」と言われながら、それにふさわしい対応が社会的になされているとは言いにくい状況です。

教育学部は教育に関するこのよ

うな状況を踏まえて何ができるか、まさに地域に問われているのかもしれない。

そういった中、教育学部はその組織の在り方自体が問われている側面もあります。

一つは、愛媛県における教員需要にどう対応するかということです。定年の延長あるいは再雇用などの動きがあるにせよ、教員退職者は確実にこれから増えていきます。それに対して、一定の資質を持った教員をどのように確保供給するのかが課題です。

もう一つは、いまだに具体が示されていない教員養成期間の延長（五年ないし六年の教員養成）の問題です。教育学部の大学院はすべて「教職大学院」にすべきだといふような議論もなされているやに聞いていますが、そういう国の施策にどう対応するのかが課題があります。

いずれの課題に対応するにしても、教育学部の組織の改編は免れません。

教育学部は、地域と連携し、教育現場に寄り添うというスタンスを保持しつつ、これらの課題に対応していくものです。同窓会の皆様には、これまでも物心両面で愛媛大学教育学部を支えていただきました。今後とも母校、先輩を温かく見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

目次

表紙

「魚市場せり」

同窓会理事 菊池 祥裕

題字 元愛大教育学部教授 菊川 國夫

「学部長就任のご挨拶」

愛媛大学教育学部長 三浦 和尚

心 響

「繋がるもの」

同窓会理事 替地 和人

学部 の 今

研究室訪問

「才色・拳・備の青井倫子先生今日は」

「魅力的な世界遺産を学ぶ旅講座②」

「コミュニケーション能力の育成①」

「コミュニケーション能力の育成②」

「コミニケーション能力の育成①」

加藤 富子

表紙絵

「魚市場せり」について

同窓会理事 菊池 祥裕

「新米教師、日々奮闘中」

西条 西条小教諭 中塚 葵

「これまでの教員生活を振り返って」

松山・北条小教諭 土井 慶樹

「六年間を振り返って感謝！」

東温・北吉井小教諭 西村 円香

「私を支える一言」

喜多・五十崎中教諭 熊井 佐織

「音楽でつながろう」

愛南・内海中教諭 加洲 光香

学内最近のニュース

教育学部留学生歓迎会を開催

今治市教育委員会と連携協力事業調印

文 芸

川柳「翔ぶのなら今」 上田 千鳥

絵手紙「気楽に絵手紙を楽しむ」

俳句「俳句三昧の一時」 柴田 博

短歌「遍路の歌」 加藤 敏史

繋がるもの

同窓会理事

替地 和人

(昭四九卒)

三月三十一日で定年退職し、現在は愛媛大学の前の東雲小学校の北校舎三階にある「松山市教育研究所」に勤めさせていた...

若き日の思いがうかがわれる。愛大の国語国文学研究室の存在を覚えてくださったのも橋本先生である...



心響

「大野利喜太」校長先生であった。桑原小学校で一年間だけの触れ合いであったが多くのことを教えていただいた...

じゃが、どうじゃろう。」と、声を掛けられた。独身者が私一人で、他の先生方への配慮であったと思うが、毎晩宿直室を訪ねてくださり自分の失敗談を聞かせてくださった...

その次に心に残っている恩師は、「大橋傳」先生である。大橋先生とは桑原小学校で先生が転出し、私が新規採用で赴任するなど...

ムの指導にしても抜群であった。私も今年の二月に県のVYS大会で指導をさせていただいたが、まだまだ大橋先生の足下にも及ばない...

最後の方に「岡史子」さんという愛大三回生の学生に学生支援員事業でさくら小学校に来ていただいた。澆測として笑顔溢れる後輩であった...

先輩を偲ぶ... (21)
林傳次先生遺稿集
「把翠」を繙く(五)
叙勲・受賞... (22)(21)
今、教育に思うこと... (22)
「ゆとり教育」検証なく転換
国体開催に思う 小野植元幸
同期会... (24)
「同期会に寄せて」 松木ヒサ子
「在京同期会」今年も八名参加
グアテマラ通信(一) 谷口 敬
JICAシニア国際ボランティア
前愛媛大学教授 杉山 允宏
先輩・現役との絆... (27)
愛媛師範学校・愛媛大学ラグビー部
ラグビー部OB会会長 金子 教美
同窓会への寄付者... (31)
会報送料送金者
地域にあって輝く愛媛大学を... (29)
「愛媛大学ボランティア活動」
「愛媛大学教育学部」
フレンドシップ事業」
敬 弔... (31)(31)
原稿募集... (31)
平成二十四年度愛媛大学教育学部
支部長会議報告... (34)(32)
平成二十四年度同窓会役員一覧表... (34)
放送大学入学生募集
愛媛大と山形大との第二回
ジョイント美術展が開催されました... (35)
教育現場等から同窓会へ
支援要請依頼について... (22)
※お詫びと訂正

学部の今

研究室訪問

幼児教育研究室

「才色拳拳備」の

青井倫子先生 今日



今年二月十六日付の愛媛新聞の記事の見出しに、「大学の先生『才色拳拳備』アマボクシング全日本女子演技三位 愛媛大・青井准教授 県勢初の快挙」が目飛び込んできた。また、しばらくして、NHK松山放送局の「伊予路てくてく」で、元世界チャンピオン内藤大助さんとスパarringしている様子の放映があった。是非、お目にかかりお話をと、五月の薫風が吹き抜ける研究室を訪問した。

「ボクシング」との出会い

中学生の時はテニス部でしたが、入前でスコートを着用することが恥ずかしく、高校では剣道部に入り男子部員と稽古をしていました。剣道は初段、大学でも続けたかったのですが、汗と防具の強烈な臭いはJR通学には肩身が狭く、大学では馬術部に所属しました。大学院以降は、研究の合間、運動不足解消と気分転換にプールで泳いでいました。愛媛大学に赴任し、年々仕事が増えるにつれ、特別な準備や道具が要らず、サツと行つてパツとでき、ひとりでも練習できるスポーツがあれば……と思つていたら、ボクシング

グに出会いました。

以前、私のボクシングへの印象は、上半身裸の男性が殴り合い、血にまみれることもある、目を背けたくなるもので、正直なところ良い印象は持つていませんでした。スポーツとして見ることは難しく、理解不能なものでした。しかし、それは裏返せば、「これは、いったい何なんだ？」という思いであるとも言えます。何事も自分で実際にやってみて理解したい性格、簡単には知ることができない世界やあまり多くの人々が知らない世界こそ知りたいと思う性格……、「ボクシングって何？」という潜在的な興味があったのだと思います。自分には縁のない世界と思つていましたが、アマボクシングで全日本選手権を連覇した方がボクシング教室を開かれ、一流の方に教えてもらえるならと入門したところ、とてもおもしろかったです。しかし、週一回、曜日と時間が決まっていましたので、仕事上行けないことも多く、また、もつと本格的に練習をしたいと思ひ始めていたところ、家のすぐ近所にボクシングジムを見つけました。プロボクシン

グ元日本ランキング一位の郷田会長が運営するジムで、毎日二十二時まで開いており、会長自ら指導をしてくださるというところで、願ったり叶ったりでした。そして何よりこのジムには、大藤コーチという優れた指導能力を持ったコーチがいます。このコーチに指導をしてもらおうと、「わかるし」「できる」ようになるのです。人にとつて、何かがわかるようになること、できるようになることほどうれしいことはない



と思います。ふだん学生たちを教える立場にある私ですが、このコーチとの練習では、教わることで、学ぶことの楽しさ、わかるようになる、できるようになる喜びを満喫しています。教える人の存在がいかに大切であるかを実感します。教わる立場に身を置くことで、教えるということについて改めて気づかされたり考えさせられたりする毎日でもあります。郷田会長と大藤コーチの指導で、私は短期間でグンと、全日本選手権に出場できるまでに成長させていただきました。

次女です。父は本家の長男、代々の家督を継ぐ身でしたが、生まれてきた子どもは三人とも女。口を開けば「男の子がいたら……」と言っていました。甘えっ子だった私を一番かわいがっていた父は、幼い頃から私に「倫子が男の子だったら……」「倫子が家を継いでくれたら……」とよく言いました。それは、うれしい反面、いやなことでもありました。高校時代の私は、理科とりわけ生物学に関心があり、将来は、遺伝子組み換えによるイネの品種改良をしたいと考えていました。そして、関東の国立T大学の推薦入学に合格し、書類に押印までになっていた時、突然、父が「女の子は県外には出さない」と言い出したのです。泣く泣く地元大学の進学しました。二回生になる時に転学部をし、専門も教育学に転向しました。大好きな生物学の勉強は「二足のわらじ」状態で続けました。

このことは私の人生においてたいへん大きな出来事でした。ボクシングという女性とは縁遠いイメージのスポーツをやるようになった背景には、「女の子であつたためにやりたいことを制限されてきたことへの複雑な思いが潜んでいるのかもしれない。三十五歳で中型バイクの免許を取り、四〇〇ccのバイクで通勤していたこともあります。また、私は茶道の師範でもありますが、「遠州流」という武家茶道、武士が嗜む男点前の流派です。男しかしないこととか、女性が簡単には見ることのできない世界を見たい」との思いが私の何処かにあるのかもしれない、ボクシングとの出会いは必然であつたのかもしれない。

好奇心、探究心が旺盛で、生き物の観察が大好き

物心がついた頃から、人が知らない

世界を知りたい、自分自身で確かめたい、実感を持つて分りたいとの思いが強くありました。たとえば、「アリの巣」の構造を顕微鏡で見ると実際のものを見たくなる。透明のプラケースで飼育する方法もありますが、私にとつてそれはホンモノの世界ではなく、満足・納得できないのです。ホンモノのアリの巣の構造とアリの生態を自分の目で見たくて、小学二年生の夏休みは、スコップを片手にアリの巣を探し歩いてはスコップを地面に突きさす毎日でした。その年の誕生日には顕微鏡を買ってもらい、身の周りのもの何でも観察しました。ナメクジが消える瞬間を見ようと塩を持つてナメクジを探し歩いたこともありました。

数年前、私の住んでいる公務員住宅のベランダに、それも、洗濯機の水が流れ込む排水溝のくぼみに鳩が卵を産みました。せっかくなので産んだ卵を撤去するのはかわいそう、鳩が巣立つまでの二ヶ月ほど、洗濯機の使用をお休みして、手洗いでしのぎました。その間、卵が孵化し、ヒナが成長して巣立つまでの過程を毎日VTRに記録しました。ヒナがいくつもの段階を踏みながら飛べるようになる過程は、たいへん興味深いものでした。最初は5cmほどの高さの排水パイプの上に乗る。その後、コンセントのコード、洗濯機の上、ベランダの手すりへと。それぞれ段階を十分に習得してから、次の段階に挑戦します。最後は、ベランダの手すりから隣の部屋のひさしまで飛ぶのですが、これは難関でした。親鳩は、「来い来い！」とでも言うように何度も呼びますが、子鳩たちはなかなか飛ぼうとしません。親鳩はベランダの手すりに戻つて来ては、羽を羽ばたかせる様子を見せ、手すりとの隣の部屋

のひさしを行ったり来たりし、何度も呼んでいました。そんなことを繰り返して、ようやく子鳩たちは飛び移って行くことができました。巣立ちまでの過程はとても興味深く感動的なものでした。公務員住宅には網戸が無いため、夏場、窓を開けていますと、外からの風だけでなく、いろいろな生き物が自由に我が家に出入りします。朝、鳩がトイレの便座の上に座っていたこともあり、夜はコウモリが寝室を飛んだり、浴室で休憩していたりします。最初は驚きましたが、コウモリの生態もおもしろく、「日本コウモリの会」という研究・保護団体の会員でもあります。オカメインコの卵を、親鳥に代わって、私が温度と湿度を調節して孵化させ、完全人工飼育で何羽も育てました。タガメを飼ったこともあり、これは、毎日生き餌が必要で大変でした。この手の話は挙げればキリがありません。学生たちは、驚き、呆れ、憧れ(?)……。いろいろなことに好奇心を抱きやってみるという点では、学生よりも私の方が子どもに近いかもしれません。

このように、私は、生来、生き物が大好きで、その生態や行動、とりわけ成長過程に強い関心があります。その姿勢は徹底的な観察に始まります。幼児教育の専門家として子どもたちとかかわる時も、この子は何を思っているのか、今、どんな気持ちで行動をとるのか、今、どんな気持ちなんだらうか、この子には周りの世界がどう見えているのだらうかと、五感を総動員して、その子どもの気持ちにならなうて感じながら、観察し、記録をとる、分析するのが私のスタイルです。

「しまなみウォーキング」…あきらめない、投げ出さない精神
毎年、ゼミの学生たちと今治から尾

道まで「しまなみ海道」八十kmを歩いて渡っています。十二年になります。愛媛大学に赴任して三年目、ゼミの忘年会で「うれしかったことでも頑張ったことでも何でも良いから、今年一番印象に残ったことを言ってみよう」と呼びかけたら、「これと言えようほどのことは何もなかった」という学生ばかりで、自分の大学時代とのギャップに驚きました。ある学生が「自転車で関門海峡を渡りました」と言ったので、「じゃあ、『しまなみ海道』を歩いて渡ろうか」と冗談で言ったところ、真に受けた学生たちが、春休みを前に「先生『しまなみ海道』はいつ行きますか?」と研究室に訪ねて来ました。内心、「え?本気にしたの?」と思いつつ、学生たちに計画を立てさせました。驚くほど雑な計画を立ててきました。全員が無事に尾道までたどり着けるために、何を考え、どんなことを想定しておかなければならないか、一つひとつ丁寧に指導や助言をし、初めてしまなみウォーキングを実施しました。尾道にたどり着いた時には、皆、まるで壊れかけの操り人形のようにでしたが、学生たちにとって、忘れられない体験、思い出になったようでした。今治から尾道まで歩くなどという実現できそうもないことも、一歩一歩歩いて行けば到達できるということ。そんな途方もない距離を歩いたのは、他の人の足ではなく、自分自身の足であり、それだけの力が皆にはあるということ。そして、一人だったら途中でやめていただろうけれど、仲間がいたから最後まで歩けたということ。それらの思いを込めて、ゴールした時の写真を貼り付けた「しまなみ完全歩証明書」を毎年、皆に渡しています。その「証明書」を携えて就職試験に赴く学生も

います。卒業生たちは、毎年四月になると、「今年も歩いているだろうなあ、今頃どのあたりかなあ」と思い出し、激励の電話やメールをくれたり、宿に手紙やお菓子、飲み物などを送って来てくれたりします。十回記念ウォーキングの年には、県内はもちろん兵庫や高根などからも卒業生が参加し、学生時代の「しまなみ」を思い出しながら歩いていました。しまなみウォーキングは、幼年教育専修のかわいらしくヤワな女子学生たちが、根性のあるオンナへとパワーアップする大きな一歩です。

私の誇りは、ゼミの卒業生で「仕事がいけない、辛い」など弱音を吐いて辞めた者は一人もないことです。私は、ゼミ生に「可能性がゼロになるまでは、諦めてはいけません。投げ出したらいけない」と言い続けています。今、自分が置かれている状況の中でできる最善を尽くさない。そうすれば、きっと道は拓けるから」と。昨年、私は足を傷めて歩けなくなりました。原因もわからず、傷めた箇所の特定もできず、一生歩けなくなるかもしれない恐怖を突きつけられ、目の前は真っ暗でした。すべてを投げ出してしまいたい気分でした。しかし、ここで私があきらめ、投げ出したら、これから先、教え子たちが困難に出会った時、「あきらめるな、投げ出すな」と言えなくなる。「先生だって、あの時、辛くてあきらめたじゃない」と言われたら、「頑張りなさい」と言えなくなる。教え子たちが頑張れなくなってしまうと思いたし。整形外科の専門雑誌を取り寄せて読み、専門の医者を探し、飛行機で大阪の病院に通いました。ギプスを外して、立てた時、歩けた時、涙が溢れました。その後は、毎日何時間もリハビリをしました。ボクシングも、「足を動かさないなら、上半身を」と、椅子に座ってパンチの軌道の練習に励みました。その甲斐あってか、全日本選手権に出場し、メダルも戴くことができました。学生や卒業生の存在がなかったら、ケガをした時、私は自分の足をあきらめていたかもしれません。

学生たちは「青井先生は厳しい」と言います。卒業後は一人前の社会人としてやっていかなければならないのだから、いい加減な妥協はしないようにしています。それでも、私のゼミには毎年たくさんの方が入って来てくれます。卒業してからも実によく訪ねてきてくれ、ずっと親交が続いています。「ともひめ会」…学年を越えた先輩、後輩のつながり
愛媛大学に赴任して来た当時、上級生と下級生、卒業生と在學生など、縦の繋がりが薄いと感じました。赴任した年に四回生だった学生が卒業して間もなくの五月、仕事帰りに研究室を訪ねて来て、こう言いました。「保育専門学校卒の卒業生は先輩と後輩の絆が強く、かわいがってもらい、いろいろ教えてもらっていて、うらやましい」と。そのことがきっかけとなり、年に一度、ゼミの三、四回生と卒業生が一同に会する「ともひめ会」を持つようになりました。三、四回生が料理を作り、卒業生を迎えます。毎年、三十人以上が集まり、近年は子ども連れで参加する卒業生も増えていきます。在學生にとっては、働いている先輩の姿は身近な目標であり、卒業後の自分の道への見通しを持つことにつながっています。卒業生たちは、「来年もまたともひめ会で皆に近況報告ができる自分でありたい」と思い、一年間がんばるんです」と言ってくれます。今では、私のゼミの卒業生と在學生は、同じ時期に大学で過ごしたことがなくても顔見知り程度で、卒論や採用試験、仕事上のことまで、先輩が後輩の面倒をとてもよくみてくれます。ゼミの新歓コンパには、「どんな先輩が入って来たのか、会いたい」と、県外からも卒業生が駆けつけてくれます。

子どもたちの心に残る先生に
紆余曲折ありながら、最終的に私が幼児教育の道に進んだのは、幼稚園と小学校一年生の時の先生との出会いがあったからだと思います。私が人生で初めてもらった手紙は、幼稚園の時に担任の先生がくださったもので、「ともちゃんだったら、とてもやさしいせんせいになれるよ」と書いてくださっています。また、一年生の時の担任の先生との小さなやりとりは、今でも思い出す度、私の心をあたたく満たしてくれました。その先生に教育の道に進んだことを報告した時、「教育の仕事は大変難しいと思います。でも、あなたならつとまるよ。よく研究してこの道に励んでください」とのお手紙を頂戴しました。幼稚園、小学一年生だった時の先生とのやりとりやお手紙、言葉が、四十年以上経った今も私を元気づけてくれ、前を向かせてくれます。人生で最初に出会う先生は本当に大切だと思えます。学生たちにも、「あの時の幼稚園の先生のあの一言が今の私を支えて下さっている」と思ってもらえるような、一生、子どもたちの心に残る先生になってほしいと願っています。

青井先生のお話は、実にフットワークがよく、切れ味鋭いジャブ、ハードなパンチの連続で、時間を忘れて引き込まれた。

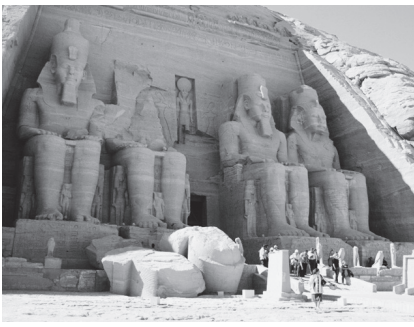
「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「魅力的な世界遺産を学ぶ旅講座(二)」

講師 旅する世界遺産研究家

久保美智代氏

(平七年卒)



ところで、世界遺産は一体何処から始まったのでしょうか。この国から始まったのです。ここ、エジプトです。エジプトと言えば、ギザの三大ピラミッドが思い浮かぶと思いますが、世界遺産の主役はナイル川をどんと遡った岸にある、このアルシンベル神殿です。ご覧のように岩をくりぬいて造られた岩窟神殿。紀元前一二五〇年頃、ラムセス二世という王様が造りました。とても目立ちたがり屋の王様で、自分を神の化身として模った巨大座像が正面に四体並んでいます。中に入ってみると、今度はラムセス二世の立像が左右に

四体ずつ。さらに、奥の至聖所の真ん中にも神々に挟まれたラムセス二世なのです。壁や天井には隙間なく細かい彫刻もなされています。こんなでつかいのよく造ったなあと思われませんが、これだけで驚いてはだめですよ。春分の日と秋分の日、太陽はナイル川の水平線から真東に昇ります。

その時、まだ生まれたばかりのオレンジ色の光が、真つ直ぐ入り口に差し込み、このラムセス二世を照らすように計算されて造られているのです。三千年以上も前のエジプト人が、高度な建築技術だけでなく、天文学や数学等に関して高い知識を持ち合わせていたということなのです。これが見たくて見たくて、ここに来たときには体が震え、感動で声が出ないくらいでした。

しかし、三千年以上も守られてきたこの遺跡が、今から五十年ほど前にもう二度と見られなくなる危機があったのです。

一九六〇年、エジプト政府はナイル川の上流、つまり、アブシン

ベル神殿がある所に、大きなダムを造り始めました。日本では戦争が終わって高度経済成長期を迎え、人を増やし、町を大きくしていく時代、エジプトもまた近代化してきていました。そこで、何がこの国では重要かと言えば、古代エジプト時代から、ナイル川が氾濫し、肥沃な土壌をもたらしてきた自然に沿った生活から、ダムを造ることによって、人が定住し街が出来る。そして、その水から農業用水、工業用水、発電まで、水をコントロールしようとしたのです。ダム建設が遺跡よりも重要であるというのがエジプト政府の考えでした。

でもこれを実行すると、さっきの神殿を含めた古代エジプトのヌビア遺跡が、水の底に沈んでしまうこととなります。皆さんだったらどうしますか。そこで何とかこれを助けなければいけないと思っただけで済ませたのが、国連機関ユネスコだったので。なんと

とカ遺跡を救済しようとして世界中にキャンペーンを張りました。世界六十カ国以上が参加した大プロジェクトになり、個人、企業、国から資金が集まり、さらに技術者も集まっていろんな協議をしまし



た。ダムを造ることは中止できませんから、どうやって移築するかです。実は、この写真では分かりませんが、縦横のブロックに切り分けられ刻まれているのです。つまり、大きなダム湖の辺の高台に人工の岩山を造りまして、そこに隣にある小神殿と合わせて千個以上に切り刻まれた神殿のブロックをクレーンで持ち上げて運び、元の通りに組み込んで移築したので

す。勿論、春分の日と秋分の日も同じ現象が起こるように。だから見てください。これは朝日が当たっているところですが、こんなにオレンジ色に輝いているのです。

で、皆で守り、そして次の世代に伝えていこうという理念が生まれたのです。

つまり、世界遺産というのは、国や民族や宗教を超えて守り伝えていかなければならない、私たち人類の宝物だということを覚えて置いて下さい。

お分かりになったでしょうか。世界遺産とはなんぞやという事が。



さあ、ここで問題です。世界遺産の一番多い国はどの国でしょう。① 中国 ② イタリア

③ 日本。そうです、正解はイタリアです。四十四カ所あります。二位はスペイン。三位中国は三十八カ所ですが、ほとんど数を増やしています。で、それを分

発想で始まっていますし、ユネスコ本部もパリにあります。北半球と南半球を比べてみると、圧倒的に北半球の方が多いのが分かります。自然や文化財を守るということは、自分たちの暮らしに余裕がないと出来ません。明日をも知れないような戦闘地域に住んでいる人は、文化財よりも自分たちの命が一番なのです。ですから、先進国から増えていきました。けれども、ユネスコとしては、貧しい地域に素晴らしい文化や自然が無いのかと言えれば決してそうではありません。だから、数の均衡を図ろうという配慮がなされています。

世界遺産に登録されたので、いろいろな保護の下、その遺産が永遠に守られるのかと言え、決してそうではありません。多くの問題が現代社会の中では起きています。一つは戦争です。いまだに戦争はなくなりません、それによって壊される美しい自然や文化財があります。ダムを造る。家を造る。道路を造る。勿論それは発展のためには必要ですけれども、それによって壊される大切な自然や文化があることを考えなければなりません。それから今、地球温暖化が問題になっていますが、カナディアンロッキーの氷河は年々後退していますし、グレートバリアリーフの珊瑚礁は、水温がたった二、三度上昇するだけで、白化するそ



うです。酸性雨が降ることによって、タージマハール大理石が少しずつ浸食されています。象においても密猟が後を絶ちません。象牙を買う人がいるから、それを売ろうとして密猟が横行するのです。戦争になると略奪も起こります。文化財の略奪。それは実に悲しい現実です。

こうゆう風にして、世界遺産を取り巻いている環境は決して安泰とは言えませんのです。

一つ例を挙げますと、アジアで一番私が好きな世界遺産はカンボジアの「アンコール」です。密林の中にある遺跡で、皆さんはよくアンコールワットと言う言葉を聞かれています。このアンコールとは王朝の名前で、ワットは寺院という意味、これはアンコール王朝の中の一つ大きな寺院ということで、アンコールワットと言われるのです。朝日が昇る直

前、背後の空がピンクに染まり、手前の池に影を落とす景色に悠久の歴史を感じ、うっとり眺めました。

アンコールには大小七百の遺跡があり、また、その大半が密林の中に埋もれたままなのです。長い間ジャングルの中に放置されていた遺跡は、今はどうなっているかと言え、木の勢力の方がうわまわってしまい、とうとう木が遺跡を壊しています。

郊外の山中にヒンズー教の神々が彫られた岩場があり、それを見るために三十分くらい山道を登りました。その時、道に沿って林の中に赤と白のテープが張られていました。当然この両側の奥には立ち入り禁止ですよとの意味です。何があるのでしょうか。そこには地雷が埋められていて危険なので、入ってはいけないのです。この国も一九九二年まで内戦があり、虐殺が行われていました。今から二十年位前のことであり、昔の出来事のように思われますが、戦争の傷跡はまだまだ、そこに住んでいる人たちにとっては現実であり、心身ともに蝕まれている証しなのです。内戦があった事実は知っていましたけれど、こんなに近くでその怖さを体験したのは初めてでした。

このように自然災害や人災で、今にも倒壊の危機にある遺産は特



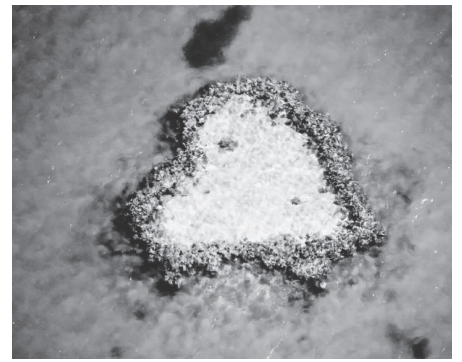
に危機遺産と言います。危機遺産リストを作って、国際社会に協力を呼びかける狙いがあります。今は三十一件。アンコールの場合、日本からも多くのプロジェクトチームが参加して、うまくいっているということから、今は危機遺産リストから出ました。しかし、また、新しいところ加わって、その数はなかなか減りません。

危機遺産と言え、発展途上国ばかりの印象がありますが、実は、先進国にも危機遺産があります。これは、ドイツの「ケルン大聖堂」。修復はしていますけれど、保護体制はしっかりしていますし、倒壊消滅の危機は全然ありません。しかし、かつて危機遺産リストに入っていたのです。ケルン市というのは、人口百万人規模の大都市で日本というと広島市くらい。大聖堂の前にはケルン中央駅があり、ここが街の中心部です。日本の百万人都市ですと、駅前ビルばかりですが、ご覧のように、ここでは大聖堂より高い建物が殆どありません。ですから、郊外から

街に入ってきた時、街の中心にそびえる大聖堂が目に入ります。しかし、近くを流れるライン川の対岸辺りはリバーフロントとして、新しいオフィスビルやホテルが建ち並んでいるのです。実はそこに超高層ビルが建つ計画がありました。もし、本当に建っていたなら、そこからの景観が損なわれていたでしょう。ビルが建つ前に危機遺産となり、このまま、建設が進めば、世界遺産から削除すると宣告されたのです。そこで、ケルン市はビルの高さを低くして建てるということ、景観を守りました。景観保全と開発という問題は各地で起こっています。

例えば、先日、久しぶりに道後温泉に行き、夜景を撮ろうと思つてカメラを構えたのですが、どう頑張つても、後ろからホテルの光が入ってくるのです。道後のシンボルは道後温泉でしょう、周囲は整備されましたが、景観から見まして、それを生業にしている人に考えて欲しいものだと痛感いたしました。皆さんどう思われますか。

さて、最後のクイズとなりました。「八百九十カ所ある世界遺産の中で、一番面積が広いところはグレートバリアリーフ。そこに実際にある珊瑚礁の形は次の内どれでしょう。



- ① ハートリーフ
 - ② ダイヤリーフ
 - ③ スペードリーフ
- どれでしょうか。
- そうですね、正解は一番のハートリーフでした。水上飛行機で空からしか見られません。ちなみに、私は新婚旅行で見ました(笑)。
- さあ、ここからは私たち日本の世界遺産を紹介しましょう。文化遺産十一カ所、自然遺産三カ所の合計十四カ所です。
- ① 法隆寺地域の仏教建造物
 - ② 姫路城
 - ③ 屋久島
 - ④ 白神山
 - ⑤ 古都京都の文化財
 - ⑥ 白川郷・五箇山の合掌造り集落
 - ⑦ 原爆ドーム
 - ⑧ 厳島神社
 - ⑨ 古都奈良の文化財
 - ⑩ 日光の社寺



町時代、江戸時代、それから、日本とは全く違った歴史を歩んだ琉球王国もありますし、昭和に入っ

- ⑪ 琉球王国のグスク
- ⑫ 紀伊山地の霊場と参詣道
- ⑬ 知床
- ⑭ 石見銀山遺跡とその文化的景観

これで、何が分かるかと言えば、北海道から沖縄までバランスよく登録されています。自然遺産を見ますと、知床は流水が下りてくる南限で特有の生態系が生きている場所ですし、白神山は手つかずのブナの原生林が広範囲に残る貴重な場所、植林される前は日本の山はこうだったのです。屋久島には、樹齢千年以上もする屋久杉の森があり、一番古い杉は縄文杉と呼ばれています。それらは、南北に細長い日本の自然を代表していると言えるのです。文化遺産も同じです。飛鳥時代の法隆寺から始まって、奈良時代、平安時代、室町時代、江戸時代、それから、日

本と全く違った歴史を歩んだ琉球王国もありませんし、昭和に入っ

「負の遺産」といわれるものです。これは二度と繰り返してはならないという、人類への警告あるいは教訓となる世界遺産です。

私はこの「負の遺産」があるからこそ、こんなに世界遺産にはまってしまったと言えます。原爆ドームの前から、負の遺産として登録されていたのが、ポーランドの「アウシュビッツ強制収容所」です。ここに行った時の印象はもの凄く強烈でした。約百五十万人の人が、ここで命を断つたといわれています。ほぼ完璧な状態で残されています。入り口の看板には「働けば自由になる」と書かれています



ていたのは、自由ではなく、死でした。収容棟の周りを囲むのは、六千ボルトの高圧電流が流れていた二重鉄線。さらに、逃げようものなら、見張り塔から銃殺されます。収容棟と収容棟の間にあるこの灰色の壁は「死の壁」と呼ばれています。裸になり、髪の毛を剃られ、壁と向い合せに立ちます。そして、銃殺されたのです。他の収容された人々には何も見えないように両側の収容棟の窓は黒い板で覆われていました。戦争がエスカレートしていくうちに人数が増加してきて、こんな方では間に合わなくなりまし

ました。そして社会が疲弊している不満をどこかに向けようか思ったとき、そこにユダヤ人がいたのです。ユダヤ人は後から入ってきて、今は豊かに生活をしている。貴方たちの富を奪ったのは全部この人たちであるという風にヒトラーはドイツ社会を洗脳していったのです。ユダヤ人と言うだけで、あるとき、家に押しかけられて子供から老人まで皆列車に積み込まれて連れて行かれたその先が強制収容所だったのです。働ける元氣な人は収容棟に入れられ、それ以外の人々は子供も含め老人、病人、妊婦さうい

た人たちが連れてこられたのが、ガス室でした。服を脱がされそして髪の毛を刈られ、その髪の毛は糸のように編まれて袋になったり布になったりしました。中は薄暗い部屋で冷気が漂っていました。部屋の真ん中にはたった一つのスポットライトがあり、少し足を踏み入れただけで足がすくみ、戦慄が走りまわりました。天井には穴が開けられていて、チクロンBという毒ガスが入られました。ガスは空気が入りやすいこと、それが充分に蓄積されていき、それが充満してくるので、人々はより上の綺麗な空気が吸いたくて吸いたくて、押し合いながら上がるうとしたのです。皆が死んだことを確かめる穴が扉のところにありまして、そ

こから覗くと、人が山形になって死んでいたそうです。

隣には焼却炉がありました。三台くらいありました。とても一人一台では間に合わず二、三人が入られたようです。最後には焼け残った貴金属や金歯まで拾ってお金に換えたそうです。

私は戦争を実際に体験していませんが、ここが残っていることで、戦争の悲惨さを想像することができました。指導者は当然悪いですが、戦争下では、無垢な人々を容易に殺害してしまう人間の弱さ醜さを知った思いがしました。これまで、世界遺産というものは綺麗で楽しいものだと思ってきましたが、なんでこんなに酷いものが世界遺産なのかと思いました。そして、そのヒントがユネスコ憲章の前文にありました。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」というのです。では、どうやって心に砦を築いていけばいいのでしょうか。私の答えは、それが世界遺産です。世界遺産を知ることによって、その国の文化を学び、自然を学び、そのすばらしさを理解します。そこに旅をすることによって、そこに暮らす人々の生活を見ます。そして仲良くなります。皆さんもそうだと思います。一度行かれて仲良くなった国

の人々と戦争をしたいなんて絶対思わないはずですよ。

私は世界遺産の旅に出て知るたびに、私の中の平和の砦がどんどん高く厚く築かれていくと信じています。ですから、今後も世界遺産を旅し、ますます強固な砦を築いて行きたいと思うのです。今日、ここに来てくださった若い人たちにも、心の中に平和の砦を築いてもらいたいと願っております。それが私の考える世界遺産の素晴らしさであり魅力でもあります。

最後に、一つエピソードを紹介いたします。この方はカンボジアで出会ったタクシードライバーのテアックさんです。私は航空券とホテルだけとって行ったわけですが、たまたま空港のタクシードライバーに乗った運転手さんがこの場で乗った運転手さんがこの方でした。先ずホテルまで行ってもらったのですが、テアックさんが「君は今日これからどうするの



だ。」と私に聞きました。「三日間滞在して、ここ、あそこあらゆる遺跡を回りたいと思ってる」と言いますと、「じゃあ僕が案内しようか。」と言われますので、そこで値段交渉をしました。三日間回ってもらって九十ドルといわれました。カンボジアでしたらこの金額はもの凄い値段ですよ。そこで、一生懸命値切りました。八十ドルにしてもいい交渉成立です。

私の旅はハードでした。たとえばアンコールワットの朝日を見に行くとしたら、一日行っただけでは天気が曇りの具合で朝日の映り方が違うでしょう。だから滞在している間は毎朝、朝日を見に行きたかったし、勿論昼はたくさん遺跡を見て、最後は晩ご飯の店を紹介してもらおうよう、朝から晩までテアックさんに運転してもらいました。彼は文句一つ言わず、言う通りにしてくれました。そして、最終日。買い物を終え、空港に行く前にちよつと時間が余りました。初めて彼から「連れて行きたい所がある。」と言われたのです。少し不安があったのですが、すぐいい人だったので、「では連れて行ってよ。」と言いました。そこは市内の寺院、寺院と言ってもちよつと古い体育館のようなところでしたが、そこに入ると祭壇に大きな仏像が三体、その前にお

線香がありました。なんでこんな見栄えもしない寺院に連れてこられたのかと不思議に思っていました。手を合わせていると、そこではなくこちらへと中庭の方に案内されたのです。塔のような所にいました。そこには骨が沢山入っていました。テアックさんは勿論英語教育など受けたことがなかったのですが、仕事しながら身につけたブローキング英語でいいました。

「自分のお父さんもお兄さんも皆この中にいます。」と。その時に私は思ったのです。私はアンコールの遺跡を沢山見に来ることが目的だったのだけれど、彼が本当に見てほしかったのは、それではなくてこれだったのだ！と。それっておそらく、私がおこに來なかつたら、気がつかなかったことでしょう。イヤー素晴らしい人だなあと思ひ、最後空港に行つたとき、ありがとうと言つた後、何気なく付け加えたのです。「今度、テアックさんが日本に來てね。」と。そうしたら、隣にいた夫に腕をつつかれ、「おいおいカンボジアの人が日本に來られるわけがないじゃないか。パスポート、飛行機代はどうするのか。」と言われ私はハツとしました。ついつい何時もの調子で言つてしまつた私は、本当に彼を傷つてました。それでも、テアックさんはニコリ笑つて「自分は無理だけれど、きつ

と僕の息子が日本に行きますよ。」と。そうやって世界遺産は次の世代次の世代と引き継がれていくのですね。

見てくださいテアックさんの顔を！ニコニコしているでしょう。まるでクメールの微笑そっくりなのです（笑）。アンコールの話題を聞くと、いつもテアックさんを思い出すのです。ということ、実際に行かないと世界遺産の真の価値は分かりません。まだまだ若い皆さんです。これから世界のいろんな所へ沢山沢山行つて経験を積んでいただきたいと思つています。



では最後にもう一回スライドを見て終わりにいたします。

あなた方の人生がこれからハッピーになりますよう願っています。長い時間に渡りご静聴いただきまして、今日は本当にありがとうございました。

「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「コミュニケーション能力の育成」(一)

加藤 富子氏講演より

(昭五三卒)

皆さん今日は、今日は後輩の皆さんとお会いすることを楽しみにして参りました。私も、三十年ほど前、この愛媛大学教育学部の学生でした。皆様は、その時は、この地球上に姿形がまだなかったこのことですね。今日は久しぶりに学生に戻った気持ちになり、凄く懐かしというか、何故かどきどきしています。この機会をつくってください。総務チームの皆様は心から感謝しています。ありがとうございます。

なで呼んでみましょうか。「せーの、はい、『富子さん』」「はい。ありがとうございます!」。

はい、今日は本題に入る前に、私のことを話しますね。

私は、教育学部中等科理科専攻生でして、小学校から数学や理科が好きな子供でした。数学や理科の問題を解くのが好きでしたが、大学に入ってから、遊び惚けていました。専攻が物理だったので白衣を着て、100%のアルミニウムを作るのにどうしたらいいのかと言う研究をしていました。

これから少しの時間ですが楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。私の名前は「加藤富子」、皆様からは「富さん」と呼ばれておりまして、皆さんも是非「富さん」と読んで下さい。では、みんな



そこで、私はアルミニウムの破片を薬品で溶かしまして、それを顕微鏡に架けて、その分子とか原子とかを解析して、コンピューターにいい解析したりして、いろいろと研究をし、それで以て卒業させて頂きました。私が三年生の時に、松山の市民会館であった「わらび座劇団」の公演に出会いました。この劇団は秋田県にありますが、その時はミュージカルでは



なくて、歌や踊りを主にしていたのですが、それを観て大変感動いたしました。このようないいかげんな私が感動できたのだから、この劇団はどんなに素晴らしいものだろうと思って、教師よりもこういう仕事をしてみたいと、強く思うようになり、この劇団に無我夢中で飛び込みました。三十数年前のことですから、殆どの人が「わらび座」ということを知らなかった。大変反対を受けました。親には勘当されましたが、どうしてもあきらめきれず、皆さんのように若かったですから。「行つてきます。」と言って、卒業後一ヶ月間三越デパート地下の肉屋さんでアルバイトをして、旅費が稼げたので、フェリーに乗り、夜行列車等に乗り継いで秋田まで行つて今があります。

今も「わらび座員」ですが、「わらび座」に入つての二年間、一から歌や踊りやお芝居のお稽古をして、そして何とか役者になれました。その間とっても苦労が多かったのです。けれど、その辺りを話し出すときがないので、今日は話しませんけれど。そして、全国を回る舞台に立つたのです。北は北海道稚内から、南は沖縄石垣島まで、色々な町や市を廻りました。海外公演も七カ国ほど廻る機会があつて、そうして、六年前にこの愛媛県に「坊ちゃん劇場」ができて、故郷に帰つてくることが出来ました。

家族の者に反対され「出て行け!」と言われた人間が三十数年過ぎたら、この地元でお芝居が出来る。本当に夢のようで、時代はどんどんと変わるのだなあと、しみじみと思つています。そして今、奇跡のような出会いが出来たわけですね。この奇跡を、皆様と共に大事にしたいなと思つているわけです。

沢山の人と出会い、沢山の感動をもらいながら仕事をしてきたのですけれど、人生にとって感動と出会いは大切なことだと思つています。若い皆様はこれから沢山の素敵な出会いをして頂けたらいいな。そして、素敵な出会いが出

来る一寸した手助けになればいいなと思つて今日は出て参りました。

そういうことで、コミュニケーションについてです。コミュニケーションについて、今日はお話をしてみたいと思います。

私の仕事は舞台の上で、今は、「田島サチ」という看護婦さんのお母さんの役とか、おばあさんの役とか幾つかの役をしているのですが、舞台では自分以外の役をします。私以外の人生を生きるわけですね。台詞は決まっているわけですが、その台詞をどうして喋るのか、何故かと言うと、このような台詞があるのです。「昨日、あれほど話したでしょう。こんな所で働くのはもうお止めなさい!」と、娘を叱りつける台詞があるのですが。では、何故この所にこんな台詞があるのかと考えると、私はお母さんの人生を想像しなければなりません。台本の中に、余りこのことは書かれてはいないのですが、この母親はどのような性格で、どのようなお家に住んでいて、日々どのようなことを考え生活している人なのかということ。想像しながら、一つの台詞が生まれてきます。

台詞というのは、氷山の一角と言われていますが、本当にちよっ

となのですね。そのちよつとの台詞が、どのような気持ちで表現したらいいのかを探り当てるために想像したりしながら、それからいろんな勉強をしたり、何よりも私自身、じゃあ加藤富子はどんな人、このお母さんはどんな人、共通点があるの。違いは、この人どう思うの。私はどんな性格でしょうと、先ず自分自身と向き合う訳ですね。そして、舞台上では自分の役になって相手の役と向き合います。決められた台詞ですけれど、そういう瞬間瞬間をいろんな人と向き合っていくのです。皆さんは決められた台詞は多分人生の中でそんなにないですよ。ありませんか？」

「いいえ」と学生。「あまり、一寸思いつかないです。」今、彼は私の指名にしばらく考え、今のよくな台詞を言ってくれましたね。言葉を発してくださいました。このように、瞬間瞬間、「えそんな気持ちそれぞれのように喋ろうか」と考えて言葉を生み出しているのです。

言葉というのは、以外と間違いというか自分はこの様な気持ちで言ったのが間違つて受けとられたりということも沢山ありますよ。逆に、相手はこういうつもりで言ったのに、全然違う意味で受け

とったりしたことがあると思います。なるべく相手の気持ちを受けとりながら自分の気持ちを伝えるにはどうしたらいいのだろうかと言うことを、少し考えたいと思います。

今日は、私は役者ですので、皆様にも役者経験をしてもらいたいと思います。

と云うことで、「心で感じて、頭で考えて、手足を動かして」コミュニケーションをつくっていくたい」と思います。

そこで、これからは皆さんノート、鉛筆はぜんぜん要りません。しまってください。必要なのは貴方自身なのです。では、そこで、いよいよ「ワークシヨップ」を始めたいと思います。

先ず、ウォーミングアップから始めたいと思います。そこで声を出してもらいます。身体をリラックスして下さい。先ず、両肩を後方にして呼吸します。次に反対に前にしてから呼吸します。では、始めて下さい。次に、肩を上げながら呼吸をして、吐きながら肩をストーンと下ろします。そうですね。ハイもう一回どうぞ！ 次に首を回します。右回り八呼間。逆に左回り八呼間。その間一から四まで吸って、五から八まではき出します。ハイ、始

めて下さい！。では、もう一往復しましょう。ハイ！OKです！。今度は、喋るための工夫として肩とか首をほぐして下さい。風邪を引きやすい人は、この喉の付け根をぐりぐりすると唾液が出てきます。唾液が出るといろんな菌があつて風邪を防止してくれるのです。ですから、是非沢山唾液を出して下さい。

では次に言葉をはっきり喋るために、早口言葉で話して、舌を「アー」「アー」と思い切り「アーアーアー」舌の付け根を柔らかくします。はい始め！ OKです！次に、口の中で舌を大きく回します。いいですか、舌を口の中で、歯の内側で歯茎をぐーっつと。

では、右回り二十回、左回り二十回やつてみよう！ゆっくりでいいですよ。セーノ。

ウーウー……十回……二十！OKです！
どうですか？舌が痛くなつたでしょう。しかし、この運動を続けますよ！今度は逆回りに、ハイ！「アーアー……十……二十回OKです。どうですか？舌痛くなつたよね！でも、これを毎日しているとスムーズにできるようになりますよ。そして、舌が柔らかくなつてきますよ。皆さん今度は巻き舌をします！どーぞ！低いところか

ら高いところへ「ウーウーウーウー……」と。皆さんどーぞ！ハイ終わりです。ここまでウォーミングアップをやってきましたが、これは、確り喋らなくてはいい、いろんな場面で、このような運動をして頂くと大変効果的になりますよ。

そして、これからご挨拶するよ
うな機会があると思います。早口言葉で舌が一番早く回るのは母音で喋ることです。日本語は「ア、イ、ウ、エ、オ」の五つの母音で出来ておりますね。例えば「わたくしの なまえは かとうとみこといいます。」ですが、これを母音だけで言いますと「ああいうああえああおうああえああいうえいああいああえ」となります。では、自分の名前を母音だけで言ってみてください！ではハイ！ハイ！OKです！これは「劇団四季」がよくするのですけれど、母音だけで喋ります。さっきの「昨日あれほど言つて聞かせましたでしょう。」は「いああいああえああいああえああいああえああいああえああいああえ」とかいて、一通り練習しますと、口が滑らかになつてよく喋れるようになってきますので、明日から母音のみで喋って練習してみてください。

ハイ！こういうことをやっている
と一時間でも二時間でも楽しく

出来るのですけれど、これだけはいけません。実は今日はもう一人、おばあちゃんね、今日は若い人に会いたいというので連れてきました。はい、おばあちゃん、早く出てきてください！
～おばあちゃん（の衣装した役者）登場！～
「はいどうも！」といいながら若い男優さんに変身！～会場驚きを込めて「オー」と言いながら拍手。はい彼は私の息子です！～会場「オーオーオー」と。いやいや実は私の息子位の年齢でして、彼は今日はおばあちゃんの格好をしておりましたが、舞台上で、フジというおばあちゃん役があります。実は私がある役をしています。しかし、どう



出来るのですけれど、これだけはいけません。実は今日はもう一人、おばあちゃんね、今日は若い人に会いたいというので連れてきました。はい、おばあちゃん、早く出てきてください！
～おばあちゃん（の衣装した役者）登場！～
「はいどうも！」といいながら若い男優さんに変身！～会場驚きを込めて「オー」と言いながら拍手。はい彼は私の息子です！～会場「オーオーオー」と。いやいや実は私の息子位の年齢でして、彼は今日はおばあちゃんの格好をしておりましたが、舞台上で、フジというおばあちゃん役があります。実は私がある役をしています。しかし、どう



は、彼、海渡君が私の代わりに一瞬やってくれているのです。だから私と海渡君とは同じ役をやっているということになるのですけれど、今日は若い皆様なので、若者を連れてきたわけです。ここで、紹介します「皆さん今日はノ改めまして、今治出身の俳優です。宇高海渡といえます。どうぞよろしくお願いします。」

「簡単に自己紹介しますと。僕は今治南高校出身で、高校卒業後は、東京の国立劇場付属の演劇研究所に入りました三年間勉強して、プロの事務所に入りました。プロ二年目で、この坊ちゃん劇場の『誓いのコイン』のオーディションを受けて合格してこの劇団に入りました。一年間世話になることに成りました。さつき富さんがいろいろ喋っていたのですが、このワークショップの演題にもありま

す『魅力的な話し合いの仕方』とか、相手に感動を与えるとか、結構抽象的で難しいなどの印象を受けた人が結構多いのではないかと思います。役と向き合うとか、自分と向き合うとかというのは勿論大切なのですが、その向き合うと言うことの中の一つで、自分を肯定する、相手を肯定するということが、コミュニケーションを円滑にするということを含め、みなさんに伝えるにきました。短い時間ですがどうかよろしくお願いします。」

海渡君は舞台ではボリスと言う役をしているのですが、なので、一寸やってみますか。何か彼には得意技があるからですね。はい、舞台でもやっているのですが、開脚ジャンプをここで、ハイ！それを連続でやってみたいと思います。～五回のジャンプ！会場大拍手！～彼は足は長くないのですが、このように毎日頑張つて演技をしています。ということ、早速、彼も言ってくれましたが、今から喜んで援助をしてくれます。では、隣の人とペアをつくってください。皆さんペアが出来ましたか。今から一分間、例えば、私と海渡くんとか、このようなかわをしてみましょう。

「ねえ、海渡君」

「はい、山に行こうよ」
「いや、でも今日は彼女とデートあつて行けないんだよね。」
「じゃー、彼女も一緒に行こうよ」

「彼女もそんなに山は好きじゃないし。」
「じゃーさあ、海に行こうよ。」
「海もね。自然があまり好きそうではないみたいなんだよね。」

はい！このように、片方が提案をします。そうすると相手か「でもね。でもね。との否定語。所謂But！ですね。こうだからね。」
「でも、こうこうをしよう」と提案すると、「でも、なにになにだね。」と相手はともかく必ず否定をします。このパターンでペアになった方はどちらが先攻かを決めます。これから一分間行います。その時に皆さん提案する方、否定する方に皆さん提案された人はどのような気持ちになったか、よく観察しておいてください。やりかたわかりましたか。はいでは一分間です。から時間は短いですよ。はい、最初はじゃんけんして負けた人が最初の提案者になってください。OK決まりましたか。では一分間ですよ。よいスタート！～一分経過～はいいい時間です。はいOKです。役割をチェンジします。

いいですか。一分間、よいスタート！

一分経過～えーと感想を言ってもらいます。どうですか。「楽しかった」「よかったです」「切なかつたです」そうだろうね。では、次に提案者の呼びかけに相手は「いいね、いいねと肯定します。」
「いいね、いいね」と。
「海渡君夕ご飯を食べに行こうよ」

「いいね、いいね」
「じゃー、鳥鍋を鳥料理を」
「そう、いいね。いいね。それに私豚好きだから豚も食べようよ」

「いいね、いいね。豚いいね。」
「じゃあさ、豚肉が多く出るところへ行こうよ。」
「いいね。」
「じゃあさ、北海道の方がいいんじゃない。」

「北海道いいんじゃない。」
「じゃあ、北海道超えてさあ、ロシアの方へ食べに行こうよ。」
「ロシア！いいねえ！」
といった感じです。

二人でこんな感じで「いいね、いいね」と、どんどん盛り上がつて、どこまでも行つてください。はい、このようにして一分間行きますよ。じゃースタートどうぞ！ハイ一分間経過しました！

では交替してください。ハイでは一分間です。スタート！はい一分間経ちました！どうですか。感想をどうぞ「難しいですね」難しいですか？それは出足をちょっと考えればいいですよ。ハイ貴方「否定するよりもいいですが、少し難しかったです。」それで、どう言う結末になったの？「アメリカまで行ってしまいました。」
△一同大爆笑▽「宇宙の方まで行った人はいなかった。最後はどの辺りまで行きましたか」「最後はお互い褒め合いました」△会場大爆笑に包まれる。▽「褒められた」気持ちはどうだったかな？「気持ちよかったです。」△会場大爆笑▽ 気持ちよかったです。よかったですね。ハイそうね、いいことを提案するのは難しいですけど、皆さんを覗いていると、さつきの否定した場面よりは随分はじけたいい顔をしていましたよ！結構日常会話の中では否定することが多いと思いますね。

じゃーもう一つ。今度は自身、皆さん自己紹介してください。例えば、
「海渡君私の足わりと人より長いんだよね。」
「ああいいねー、おれはさあ、凄くジャンプ力があるんだよねー。」「いいねー。私ね結構頭

は、彼、海渡君が私の代わりに一瞬やってくれているのです。だから私と海渡君とは同じ役をやっているということになるのですけれど、今日は若い皆様なので、若者を連れてきたわけです。ここで、紹介します「皆さん今日はノ改めまして、今治出身の俳優です。宇高海渡といえます。どうぞよろしくお願いします。」

「いいね。」

てな感じで、自分のいいところを
探し、それを相手はきちんと認め
ます。で、もう一つ今度は身体を
使って「いいね！」と言うと同時
に、今は言葉だけだったのですが、
肩を触るか、「いいね！」と言
いながら頭に手をやるか。「いいね、
いいね。」とか言いながら手を握
る。この三つの動作を入れる。こ
れは、順番とかは決まっていませ
んの、とにかくここを触りたい
など思った時に、次にその動作を
することにします。そして、皆さ
ん自分をちゃんと観察してくださ
い。どんな気持ちになっているの
か。相手の表情はどうなっている
かを観察してください。よく観察
してみてください。

「じゃー。これも一分間。」「自分
を認める。相手を認める」いいで
すかいますよ！では、ハイ！。
「よいい、スタート！〜一分経過
〜 はあーい、今、いいね、いい
ねですけど、身体を触ってみま
した？どんな感じだったですか。
「ちょっと恥ずかしかったですけ
れど、嬉しかったです。」頭、肩、
手を触ってみてどうだったです
か？「何かよけいに共感し合えて
嬉しかったです。」「今は少しずつ
やってみましたが、自分のいい

まやっただ中で生まれた感じ、どん
な気持ちが届いたかなあというの
を大切にしてください。ゲームな
ので理屈っぽいことは何も無いの
だけれど、自分の心の中で動いた
こと、「ああ気持ちよかったなあ」
とか、「ああ、こういうときに相
手と共感できるんだなあ」とか。
「相手を触ったら言葉かけも違っ
てきたなあ」とか。そんな感覚を
大切にしてもらいたいなあと思
います。

いますよね。私はB型なんですけ
れど、海渡君はどう？、「えっ！
私はA型ですよ。」ああそうなん
だ。このように違いますよね。
じゃー、私が「血液型」と言っ
たら、B型の人は、「B型、B型」
と言って。A型の人は、「A型、
A型」と言うふうにして集まりま
す。困難なことが沢山ありますが、
上手に周りのことなどによく注意
を払って集まってください。では
皆さん、そこに立ってみてくださ
い。「さあ！心で感じて、頭で考
え、手足を動かします！そしてコ
ミュニケーション！いいですか、
では、心、頭、手足を働かせ声か
け合って、頑張って集まりまし
ょう！そして、集まったことが分
かるようにその場に座ってくださ
い。

よね。今から言いますので、ちよつ
と考えてね！。みんな黙って自分
の心の中で考えてください。
「松山と言え、何を思い浮か
べるだろう！」「松山」と言え
ば！これ！と言って自分と同じ人
を探すですよ。だから自分のイ
メージを他の人に伝える。大変だ
よ！ハイ！いきますよ！「松山」
と言え、どうぞ！〜一分経過

えーと、「コミュニケーション」
という言葉ってどんなだと思いま
すか？。やはりそこには身体を
使ったものがあるんですね。そこ
には、総ての相手を受け入れ、自
分を発しているのですね。
今度は、皆さんにもっと動い
てもらいたいと思います。ここには
机、椅子があつて狭いのですが。
実は広いワンフロアで動いても
らいたいと思います。あえてここ
でも出来るように、私は今日寝な
いで考えた「集合ゲーム」をや
てみたいと思うのですよね。

ではいきますよ！「集合ゲーム
その一、血液型が同じ人！」どう
ぞ！〜一分経過〜
はい！決まりましたかね。ここ
の皆さんは何型？「AB型です。」
ここは？「B型です。」いたじゃ
んB型が！えー、真ん中の方々
は？「A型です。」「B型です。」
じゃーB型の人はここに集ま
て。そして、向こうの人はA型ね。
「はあーい。」そっちの人は？「O
型です。」おー！日本人の血液型
比率と似ていますね！。はい、今

見ていると、Aの人、あのAとか
Oとかついでついでやってましたけ
れど、もつと早く、もつと声を出
して、そして相手の声をもつと
キャッチしてください。なるべく、
いいですか積極的に自分を要求し
て、そして相手を受け入れて。そ
れでは皆さん誕生日の月がありま
すよね。何月か。「いいですか、ヨ
ーイ、スタート！」〜一分経過〜
ハイ！OKです！はい、一月
の方どこにいますか。はい一月、
二月は二人、三月、四月、五月、
六月は多いですね。……十一月、
十二月 はいOKです。結構大変
だったでしょう。自分と同じ人を
見つけることは、で、どんどん積
極的に、では次、今度はちよつと
頭を使いますよ。よく聞いてね。
今はもう決まったことでした。血
液型も、誕生日も決まっています。
今度はイメージ。皆人それぞれ考
え方とか違いますよね。だって、
顔が違うと同じように、みんなそ
れぞれ違うと思います。でも同じ
ことがあるかもしれません。今か
ら私が言うことに対してイメージ
をつくってください。例えば、「太
陽」と言ったら、どう言うメー
ジが浮かびますか。「光」です。
そう「光」ですよ。」「太陽」と言
たら「夏」とか、一つの言葉から
思い浮かべるイメージがあります

えー、みんなと全然違っている
のですよ。ハイ、このあたりは
一緒？何でしょう？このグルー
プは？「松山城」です。「松山城」
ね！OKです。はい、この人い
たじゃない！仲間に入れてよ。こ
ちらは一緒ね！。坊ちゃん、温泉
松山城と、それ以外にイメージし
た人は？「正岡子規」とかはあり
ませんでしたが？OKです。あり
がとうございました。では皆さん
早く席に着きましょう。
〜次号に続く〜

職場だより

新米教師、日々奮闘中



西条市
西条小教諭
中塚 葵
(平二三卒)



愛媛大学を卒業し、長年の夢であった教員となり、二年目を迎えました。教員生活一年目は、何もかもが真新しく、期待と不安で一杯でした。まさに、「ドキドキの一年生」状態。生まれて初めての一人暮らしでは、ワクワクウキウキしていたはずが、一週間も経たないうちに、まさかのホームシック(笑)。おかげで、親のありがたみを知り、おまけに千ピースのジグソーパズルも完成させました。いろいろな経験を通して、少しはたくましくなったのではないかと思います。

私が初めて受けた学年は三年生でした。どんな子どもたちなのだろう、学級開きで一体何を話せばいいのだろう……次から次へと不安が襲ってきます。ところが、子どもたちを目の前になると、そ

れまでの不安が嘘のように消えていきました。クラス全員の顔がこちらを向いています。少しドキドキした顔、ワクワクした顔、この先生は怖いのかなと様子を窺っているような顔、様々な顔です。その一人一人の顔を、今でも鮮明に覚えています。この瞬間、私は本当に教師になったのだ、と実感がわきました。

無事、子どもたちとの出会いを終え、いよいよ本格的な先生の仕事、授業が始まりました。「教師は授業で勝負」と、学生時代から何度も聞いてきました。しかし、日々の授業をこなすのは本当に大変です。「子どもたちが分かる、楽しい授業を」と理想を掲げていても、なかなかそうはいきません。毎日が失敗と反省の繰り返しです。それでも、時々、「あゝ今日の授業はうまくいった！楽しかった！」と思う瞬間があります。それはきっと、子どもがよく発表していたり、「なるほど、分かったぞー」という声が聞けたり、クラスに一体感が生まれたり……と、子どもの姿がいきいきしてい

ると感じた時です。「先生、これ楽しい！もつとやろう！」「最初は難しかったけれど、スラスラできるようになって嬉しい！」目を輝かせて報告する子どもたちをみると、私も俄然やる気が出ます。こんな子どもたちの姿が見たくて、教材研究をしたり、授業技術を勉強したりするのもかもしれません。また、初任者指導の先生に、「あなたは、授業のセンスがあるし、喋りも上手い」と言っていただいたことは、自信に繋がりました。謙虚な気持ちと向上心、そして、少しの自信、おまけにハッターを少々(謙虚とは真逆ですが)が、私の成長の栄養剤です。

先生には、もう一つ大切な仕事があります。学級経営や生徒指導です。これは、授業以上に苦労しました。毎日のように、「〇〇君が△△してくる」と訴えてきます。また、「マスクがなくなりました」「絵の具道具はどうしたらいいですか」など、「自分で考えてよ！」と思わず言いたくなるような相談も受けます。さらに、やんちゃな子どもや、引つ込み思案でなかなか自分を出せない子どもなど、いろいろな子どもたちとの関わり方に悩む日々が続きます。よりよい関わり方ができず、自分の不甲斐

なさにも、職員室で涙したこともありました。悩んで、落ち込んで、もう駄目かもしれない……と思っていたとき、助けてくれたのは、クラスの子どもでした。ちょうどインフルエンザが大流行していた時期で、その子もインフルエンザで長期間休んでいました。明日からはもう登校できる、ということでお便りや計画帳を取りに保護者が来校されました。その横には、ちょこんと子ども姿が。「家で寝よらんかいつて言っただんでね、先生に会いたいつて言うんでね。」なんだか、とつても嬉しかったです。やっぱり、教師は子どもに支えられているんだなと実感しました。

ある初任者研修で、すてきな詩に出会いました。中山譲さんの、『先生』という詩です。「子どものことを好きなだけではただただ子どもを愛するあなただから、先生と呼びたい」という一節で結ばれています。日々のドタバタに子どもとのかかわりがなおざりになっていることがあるかもしれません。いつも子どものことを中心に考えられる、子どもの成長のために自分も成長できる、そんな教師になりたいです。さて、最近我が家に可愛らしい

お友達がやってきました。ハムスターです。サファイアブルーの男の子で、名前はポポ。小屋で寝たり、顔をゴシゴシしたり、ちょろちょろ走り回ったりと、可愛い仕草に癒されます。帰宅後、呼びかけると、大好物のピーナッツを目当てに、手に飛び乗ってきます。目当ては私ではなく、ピーナッツであると判っていても、やっぱりポポは可愛いです。親ばかならぬ、飼い主ばかりですね。可愛い子どもと可愛いペットに毎日癒されながら、日々奮闘している、新米教師です。

☎ 793-0044
西条市古川甲

三三二二一



これまでの教員生活へ
振り返りつて



松山市

北条小教諭

土井 慶樹

(平九卒)

愛媛大学を卒業してから、十五年が過ぎました。大学を卒業したばかりのころは、まだ教員採用試験には合格できず、講師として様々な学校に勤務させていただきました。

最初の学校では、二年生を担当し、私の腰ぐらいの身長の子どもたちと悪戦苦闘していました。初めての子どもたちということもあり、本当にかわいかったことを思い出します。

次にこの学校で経験したのは、音楽専科でした。エレクトーンは得意でしたが、ピアノとなると難しく、毎日音楽室でピアノの練習の日々でした。ただ、子どもたちの授業中の楽しそうな笑顔が私の苦しみをいやしてくれていたかも知れません。

そして、次の学校は、中学校でした。今までのかわいい子どもたちとは、変わって大人びた子どもたちと毎日接することになりました。

た。それでも、やはり、子どもは子ども、授業中には、いつも笑顔で反応してくれて、子どもたちの発言に何度も助けられました。また、野球部の顧問として部活動も経験しました。子どもたちと汗を流し、ここでの子どもたちのつながりは本当に大切だったと実感しました。初めての中学校での仕事だったので、たくさんの先生方に助けていただきました。中学校は、教科の先生方と接する機会が多く、その先生方に授業の進め方や指導案の作り方などを徹底的に教えていただきました。その学校が社会科の四国大会の会場であったこともあり、本当にたくさんのことを学ばせていただきました。



次この学校では、四年生の担任で、四十人の子どもたちと一年間過ごしました。様々な家庭環境の子どもがおり、生徒指導はもちろん、日々の授業にもかなり気を遣っていました。その甲斐あってか、子どもを見る目が少し変わったような気がしました。それは気になる子どもを中心に授業を仕組んでいくことで、子どもたちのよりよい成長が見られるということに気付いたからです。それから、とにかく子どもたちの目線に立つて教育活動をしていこうと思っていました。そして、この年に教員採用試験に合格し、晴れて正式採用で教員になることができました。

初任の学校では、顔見知りの先生方が多く、和気あいあいとした中にも厳しさのある職場でした。ここで、私は、組織の一員としてどうあるべきか、また、その組織の中心として働くことの難しさを実感しました。体育主任を任され、いろいろな先生に遠慮しながら、仕事をしています。「遠慮したら、子どもにも伝わる。先生の思いをしっかりもって、子どもたちにも先生たちにもぶかっついていかないといけない。」と先輩の先生に言われて、まだまだ自分は甘かったと反省しました。自身自身が中心となって学校を動かしていくことを一から考え直すよい機会となりました。

そして、初任から五年過ぎ、へき地校へ転勤となりました。全校生徒が十一人、学校の目の前に広がる青い海と青い空。本当に心が洗われるようでした。その学校では、学校運営の難しさを実感しました。教務主任になり、学校全体の動きをいかにスムーズにするかを常に考えていました。しかし、細かいところまで目が行き届かず、迷惑を掛けることもありました。しかし、その学校の同僚に助けてもらい、また、元気な子どもたちの笑顔に救われ、何とかやり遂げることができました。

そして、次の学校は、バンコク日本人学校でした。今までの私の人生観が本当に変わってしまいう出来事ばかりでした。言葉の通じない国(タイ語)、全校生徒二五〇〇人、職員室は四つ。職員の数タイ人のスタッフを入れると二〇〇人以上。これから私はどのように生活していけばいいのか不安で仕方なかったことを思い出します。また、何よりコミュニケーションが必要であると考え、タイ語を勉強しました。最初は拙いタイ語でしたが、話していくうちに伝わるようになっていきました。学校では、二五〇〇人児童を動かしていくかなければならないので、何をするにも秒単位の細かい

計画が必要でした。私には今まで考えたこともなかった体験だったこともあり、本当に良い経験でした。

この学校で学んだことは、三つあります。一つは、組織力です。大きい組織になればなるほど、組織として動くことの大切さを実感しました。二つ目は、調整力です。たくさんの人たちと話をし、たくさんの人たちに同意を得て初めて仕事ができることを学びました。最後に適応力です。何事も自分から積極的に係わっていくことでより速くその環境に慣れる事ができます。そのおかげで、タイ語も上達しました。いろいろな人とのつながりが本当に大切であることを学びました。

現在北条小学校に勤務しています。今までの自分が学んできたことを少しでも発揮して、子どもたちや先生方、地域の方々に貢献できればと思います。日々実践を続けています。今までの自分を振り返りながら、更に成長できるように、また、明日から頑張っていこうと思っています。

799-2430 松山市北条辻六四

六年間を振り返って

感謝!



東温市
北吉井小教諭
西村 円香
(平一八卒)

卒業して六年が経ちました。大学時代の専攻は理科教育でした。高橋治郎先生のご指導のもと「避難所としての学校の在り方」についての卒業論文を書きました。また、児童文化研究会や書道研究会のサークル活動やフレンドシップデー」の活動にも打ち込みました。大学時代は、無我夢中で、中身の濃い四年間でした。

その後、四年間の講師経験を経て、二年前に教諭として採用されました。教員の一日は、あっといいう間に過ぎていきます。けれども、この六年間を振り返って思うことは、自分は子どもが好きで、子どもと共に成長できるこの仕事に就くことができてとても幸せだということです。

平成十八年四月、最初に赴任したのは、今治市立桜井小学校でした。一学期間、二年生の担任をしました。これまで、子どもが座って授業を受けるのは普通のことだと思っていました。しばらくして、それは当たり前ではないのだと分かりました。私が思い描いていた小学校生活は、教師の指導があつて初めて成り立つことを学びました。

九月からは、今治市立立花中学

校で勤務しました。その間、毎日続けたことがあります。朝早く出勤し、若い先生方と職員室の床や廊下を掃くことです。生徒指導がうまくいかず悩むこともありましたが、先生方からの「ありがとう。」や温かい一声に励まされました。

平成十九年には、今治市立大西小学校に赴任し、一年間三年生の担任をしました。児童は明るく素直でした。私の指導は、良くも悪くも子どもたちに響きました。必死で教材研究をして、児童と向き合いました。二月ごろには、三月に来る別れを覚悟し、毎日学校から泣きながら家に帰りました。それとともに、「この仕事をもっと続けて極めたい!」教諭として教壇に立ちたい! 継続して学校で働き、教え子の成長を見守りたい! という強い思いがわき起こりました。

平成二十年九月には、松山市立拓南中学校で理科の講師として勤務しました。毎朝学年会を行い、連携を密に取りました。生徒指導にたけた先生方からは、どんな困難があつても逃げ出さない姿勢を学びました。体育祭や音楽会などの学校行事では、学級の力がましまり、高まつていくのを感じました。放課後は、多くの卒業生が、恩師に近況を報告しにきていました。中学校生活が一人一人の生徒にとって大きな宝物になっていることを感じました。

平成二十一年には、今治市に戻り、再び今治市立大西小学校で勤務しました。三年生だった児童は五年生に進級していました。以前かかわった保護者も温かく声をかけて下さいました。二年経つと、

学校の様子は大きく変わってしまいました。学校は、そこにいる児童、保護者、教師によって毎年変わる生き物のようだと思います。その年の教員採用試験で、とうとう合格を手にすることが出来ました。

九月には、今治市立清水小学校の理科専科として勤務しました。大大好きな理科ですが、三年生から六年生の教材研究は大変でした。冷たい冬の日も実験の準備に明け暮れ、指先はパツクリひび割れました。そんな時ふと思つたことがあります。「この教材研究は、私の恩師が私たちにしてくれていたことだ。今はそれを私が目の前の子どもたちに返す番だ。」自分を奮い立たせて教材研究をしていると、熱意は児童に伝わり、「先生の授業が好きです。」という言葉をたくさん貰えるようになりました。

平成二十二年四月には、初任者として今治市立別宮小学校に勤務しました。学年主任からは、「何にでも挑戦してみたい。やつてみた結果、なぜうまくいったのか、いかなかったのかを最後に反省したらい。」と教わりました。三月、東日本大震災が東北地方をおそいました。被災された方を思うと、いたたまれない気持ちになりました。東北の仙台に行きました。そこでは、多くの大学生ボランティアや社会人ボランティアの方と出会いました。大震災を通して、「命はいつ終わるか分からない。一日一日を、一期一会を大切にしたい。」と心から思うようになりました。

現在、私は、東温市立北吉井小

学校に勤務し、一年生を担任しています。新入児にとつても、私にとつても初めての一年生です。学級には、色々な個性を持った子がいます。どの子も、かわいく、いとおしく思います。新鮮な気持ちで楽しい毎日過ごしています。苦しい時には、今まで出会ったたくさんの先生方からの言葉を思い浮かべます。「どんな校務分掌でも、与えられたら一生懸命取り組みなさい。」「子どもや保護者がお客さんだということを忘れないように。」「若い先生が、先に出て学年下校をまとめておくのよ。重役出勤はだめよ。」たくさんの教えや先輩の先生方の背中が、教師としての私の今を支えてくださっています。感謝の気持ちでいっぱいです。

愛媛大学で学んだことやこれまでの経験を生かしながら、これからの愛媛の教育を担っていく教師へと成長していきたいです。そのためにも、いつも謙虚で、どこまでも意欲的な人間でありたいと思います。

東温市志津川
二〇六一



表紙作品について

「魚市場せり」二〇二一年



作者
菊池 祥裕
(昭四六卒)

てやてや音頭「港朝市 てやてやてやてや よいよいやんせ八幡浜よいしょ!」の魚市場に郷愁を感じている。三十数年前の松柏中美術教師時代の写生会より私の魚市場巡りが始まった。当時は市場敷地いっぱいの水揚げに出くわすことがあり、まさに、感動のものであった。往時の勢いはなくなつたとはいえず、今でもけつこう賑わったとはいえず、今の油絵「魚市場」の制作視点は、競り、運び、ひとやすみ等であり、描きたい気持ちや構想は尽きない。

この作品は、魚市場のテーマでは初めての一〇〇号大作であり、日展初入選をした記念の作品である。今後も、魚市場の働く人々のうごめきや生活感、早朝の空気感さらには活況が表現できるように精進していきたい。

略歴

- 一九四九年 八幡浜市生まれ
- 一九六四年 八幡浜高校入学
- 一九六七年 愛媛大学教育学部入学
- 一九七一年 伊方町立伊方中学校勤務
- 一九七五年 愛媛県美術会洋画部会員
- 二〇〇七年 八幡浜市立保内中学校退職
- 二〇〇九年 家族三人絵画展開催(還暦記念)
- 二〇一一年 日展初入選
- 現在 愛媛大学教育学部同窓会南予理事

八幡浜市八代四五六一二七

私を支える一言



喜多郡 五十崎中教諭 熊井 佐織 (平九卒)

二月十日。その日何が起こったか。そう質問された時、あなたははたどう答えるだろう。

二〇〇一年二月十日、ハワイ州のオアフ島沖でそれは起きた。愛媛県立宇和島水産高等学校の実習船「えひめ丸」が原子力潜水艦「グリーンビル」に衝突され、沈没。尊い命が失われ、未だに一人の行方不明者がいる。

数年前までは、教壇で前述の質問をしてもほとんどの生徒がその事故を知っており、答えることができていた。しかし、あれから十一年、それを知っている生徒はわずかとなり、この愛媛県ですらそれが語られることも年々少なくなってきたように感じる。

私にはその事故と共に思い出される忘れられない一言、そして私を支えて続けてくれている一言がある。



彼と出会ったのは初任者として宇和島市で教師生活をスタートしたばかりの頃。私は中学校で美術科を担当していた。当時私は悩んでいた。授業も下手、生徒指導もうまくいかず、いろいろなことにすっかり自信を無くしていた。学校と家との往復をしながら「もうやめようか。私はこの世界に向いていないのではないか。」そんな思いを日々廻らせていた。

当時、卒業を間近に控えた三年生の最後の作品のテーマは、卒業の記念品づくり。石で篆刻(印)を仕上げ、それを収納するための

木彫りのケースを制作していた時のことである。

彼は彫刻刀で印のケースの真ん中に印という字を大胆に配置し、それを丁寧に彫り上げた。「できました。」

彫り上がりを見せ、次の作業工程に移るため私のところへ作品を持ってきた。「うん、いいね。上手に彫れるよ。どう?あなたの感想は。」

そう話しかけると、彼はちよんと小さくお辞儀をし、少し恥ずかしそうにつぶやいた。「美術は、結構、楽しい。」

私ははっとして顔を上げた。彼が席に着くまでの間その場に立ちつくし、そして次の瞬間うれしさで胸がいっぱいになった。自分の拙い授業を楽しいと言ってくれた。あの時彼がくれたその一言は、未だに私の心の支えとなっている。

自分の授業は生徒にとって楽しく学べるか。充実感を味わうことができるか。彼がくれた一言を思い出して初心に帰り、今もそのことを大切に続けている。美術そ

のものを教えることも大切だが、それ以上に美術を通して生徒とかわることが大切なのではないだろうか。今も相変わらず試行錯誤の毎日ではあるが、教師としての喜びを味わえるようになった。彼に会えたら心からありがとうと伝えたい。

しかし、彼は唯一その事故以来未だに姿が見つかっていない。卒業後の進路が決まり、皆喜んで送り出してから約二年、突然に日常生活の中に飛び込んできたあまりにも大きな悲しいニュース。連休の朝新聞を開き、その衝撃に言葉を失い座り込んでしまった時のことを今でも覚えている。眠りについても、しばらくは水が襲つてくる夢に目覚める夜が続いた。家族の方々の胸の内はいかばかりなものか。それを想像しようとする胸がキリキリと痛くなる。そしてそれを思うと、彼らのことを私の口から誰かに話すにはあまりにも軽々しいようで、どう語っていいのかわずと分からずいた。そのため、彼とのエピソードもずつと胸にしまったままだった。

しかし前述の通り、近年この事故を知っている生徒は年々減り、また、自身の異動により他の市町で勤めるようになると、なおさらこの日を忘れてしまっている人が大人でも少なくないということを感じることがあった。次第に「彼らのことを風化させたくない。」そんな思いが湧き上がるようになった。彼らと同じ時を過ごした者として、逆にそれを伝えていかなくてはいけないような気がしてきたのだ。あれから月日が流れ、私は三年前の二月、親になった。月日とともに命も巡っていく。喜びと悲しみを両脇に抱えて迎える二月。立春を過ぎても木々の芽は固く、やさしい春風が吹くまでもう少し。今年も卒業記念品づくりのシーズンがやってきた。「美術は、結構、楽しい。」二月の空に彼の言葉がこだまする。

音楽でつながろう



愛南町 内海中教諭 加洲 光香 (平三卒)

音楽が大好きになり、音楽教師を目指したきっかけの一つは、小二の頃、音楽の授業で聴いたメヌエット(ビゼー作曲)でした。母に何度もおねだりして買ってもらったジャン・ピエール・ランパルのLPレコードは、小二の私には、とても高価なものでした。初めて家のステレオで聴いたときの感動とワクワクした気持ちは今でも印象に残っています。レコードの溝がすり減るくらい聴き、私の宝物となりました。また、鼻歌交じりでいつも楽しそうに唱歌や童謡・演歌を歌っていた母の影響で、私は歌うことが大好きになりました。

小・中・高校・大学と合唱部に所属し、数々の素敵な合唱曲と私の視野を広げてくれた、たくさんの仲間と出会いました。音楽教師を目指す決心が固まったのも、これまで、合唱や音楽を通じてお世話になった先生方や仲間との出会いがあったからだといまでも感謝しています。

さて、そんな私が新採で赴任した学校は、松山でも有数の大規模校で、当時、音楽教師が三人配置されたため、私は音楽よりも英語の授業時数の方がはるかに多く、「どうしよう。私、何も知らん……」責任の重さをひしひしと感じ、先輩の先生方にくつついて必死で毎日の授業をこなしていました。初任者研修では、授業研究の他に講義を受けることがメインでした。でも、聞くだけの話って眠い！面白くない。ふとそのとき脳裏に浮かんだのは、私の授業でした。私の授業は、生徒にとって分りやすく、達成感のある授業になっているだろうか。私自身は授業を楽しんでいるの？



と授業も面白くないよね。失敗することは多いけど、思いついたことはいろいろやってみよるよ。」そうなんだ。彼女は生徒が興味をもって取り組めることを探し、努力していました。私は自分を恥ずかしく思い、「音楽活動の虎の巻」を探す旅にでました(笑)。もともと感動するタイプの私は、部活であろうが、授業であろうが、生徒にどんな自分が感動したこと伝えていきました。

「もうすぐ総体やね。野球の全校応援があるけど、選手に歌でエールをおくれたら、勢いがつくよね！発声練習をかねてやってみようか！さあこれは何の曲か知っている？(しばらく伴奏を弾く……)」

確定した瞬間、一人の女の子が「先生！『栄冠』を歌いましょう！」と、みんなに呼びかけて歌いはじめました。続く校歌も今までになく高らかに心からのエールでした。私が感動して「うるうる」になったのは言うまでもありません。

「正解！曲名、知っているかな？」

S「♪なんやった？(ざわざわ)」

t「栄冠は〜キミにっ！(二人の男子を指して)輝く！」(笑)

t「じゃあ、どんな声で歌ったらしい？」

S「胸をはって、堂々と行進するように歌います。」

t「感性が鋭いね！大地をしつかり踏みしめて、高らかに歌ってみよう！」

この時の郡総体決勝戦。優勝が

が面白くなっていくんだよ。気付いたことや感じたことを発表するのは自分のためでもあるし、仲間と(心が)つながる第一歩なんだよ。」曲の盛り上がりや最後のハーモニの余韻を全員で味わえた時の感動は最高です。生徒が「感動」し、「生きる喜び」を実感するためには、音楽を通して人とつながり、仲間を大切にすることが大切です。そして、素直で明るい生徒たちとともに、私も成長していきたいと思えます。I love 内中！



東京シティ・フィル内海公演 運命の指揮にチャレンジ！

〒798-4110 南宇和郡愛南町御荘 平城三五八四一二

教育学部留学生歓迎会を開催しました

平成24年4月27日（金）、愛媛大学校友会館において、教育学部留学生歓迎会（前学期）を開催しました。

本学部留学生は、今年度4月から新たに6名を迎え、現在19名が在籍しています。歓迎会には、留学生、教育学部長、指導教員、留学生チューター、事務職員などが一同に集い、校友会館2階のサロンにおいて、12時10分から立食パーティー形式で行われました。

国際交流委員会・牛山先生の司会のもと、学部長の歓迎挨拶があり、乾杯で会が始まりました。途中、4月に来日した留学生がそれぞれ流暢な日本語で挨拶し、また、チューターの学生さんや指導教員による留学生の紹介がありました。和やかな雰囲気の中、留学生、チューターの学生さん達はお互いに自己紹介をしたり、記念撮影などをして交友を深めていました。



パーティー風景1



パーティー風景2

学内最近のニュース

今治市教育委員会と教育学部が連携協力事業の調印を行いました

平成24年4月23日（月）、教育学部は、今治市教育委員会の高橋実樹教育長を迎え、同委員会との平成24年度の連携協力事業の調印を行いました。

教育学部はこれまで、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、今治市教育委員会、伊予市教育委員会、松前町教育委員会、東温市教育委員会とそれぞれ連携協力の覚書を交わし、その活動を通して、教育研究、教員研修、教員養成について多くの成果を挙げてきました。

今治市教育委員会とは、平成15年の覚書の調印以来、継続的に共同研究を行っており、『研究報告書』（愛媛大学教育学部・今治市教育研究所）の形でその成果をまとめています。今年度は、昨年度に引き続き、「**確かな学びを保障するカリキュラムの開発と授業の創造**」というテーマで研究を推進することとしました。その趣旨は、「教育現場の諸問題の解決のために、理論と実践の一体化による研究を推進するとともに、教師の創意工夫を生かした授業を創造し、児童生徒に多様で確かな学力を身につけさせる」というものです。

教育現場の具体に即した継続的な研究の成果が期待されます。



握手を交わす三浦教育学部長と
今治市教育委員会高橋教育長

文芸



川柳

翔ぶのなら今



上田 千鳥
(昭二四愛師研)

翔ぶのなら今追風が吹いている
入社式龍馬になると眼が光る
ここ一番母は鬼にも立ち向かう
カメレオンの眼に平凡なピカソの
絵

飾らない木綿のような友がいる
世の中を仮面付け替え渡りきる
多数派へふらふらなびく保身術
ほどほどに生き喝采も罰もない
若者の羽化が遅れる不況風
シャッター街自販機だけが小商い
CO2に巻かれ悲鳴の地球号
八月の痛みへ祈る千羽鶴
介護したように優しく墓洗う

「待つ」
トップの座に着くと孤独が待っている

「乗り気」

儲け話へいそいそ膝が寄ってくる

☎ 790-0853
松山市上市一丁目

一〇一九

絵手紙

気楽に絵手紙を楽しむ

宮内 久司

(昭三二修了)

紙面に大きく絵を描き、気持ち
を一言添えるだけの絵手紙は、細
かい事が段々苦手になってきた私
には今一番適しているように思う

受け取ってくれる方も、ほとんど
が高齢者なので笑って受けてくれ
ているようである。

永い勤めの間に随分助けても
らった人・親しくつき合っていた
仲間とも退職以来ご無沙汰ばか
りである。年一回の年賀状だけ
なく元気で居ることだけでも知
りたい。

札状も絵手紙風に書くと思いい付
きやすい。一言札の気持ちを表し、
後は絵で助けてもらうことができ
る。親しい相手には、ついつい文
字が多くなってしまう事もあるが
こんな時も、どこかにちよこつと
絵を挟むことにしている。絵が文
章を補ってくれる気がして何とな
く安心できる。こんなのは絵手紙
とはいえないのだろうか、葉書に
は何時も下手な絵を添えて笑って
もらうことにしている。

☎ 791-0242
松山市北梅本町七四一



俳句

俳句三昧の一時



柴田 博 (白雨) (昭二五卒)

ポケットに紙と鉛筆、その上に俳句歳時記(文庫本)、これさえあれば、いつでも、どこでも、思いのままに、作句すればよい。頭の活性化、ボケない為に。老令になればことさら句作りを推めた

米寿迎え 俳句三昧 夏来る (八十八才、よくも、まあ生きたものだ。感謝感謝) | 平成二十四年を迎えて | 波立たず 無念無想の初湯かな 賀状来る 戦友健在 筆のあと 寒の入 銀杏の黄葉を掃き清む 古木なる杉おおしくも初御空 神苑に立ちて四方へ淑気かな 八十路坂作句あれこれ春の宵 咲きはこる老梅ぐるり裸木なり

生きがいは麦秋を友二十年 今日も無事佐島に夕日沈む春 指四つ立てし曾孫に初春の風 (曾孫女の子が出来た幸せな人生)

六キロの鯛の切れ味初夏料理 (三崎半島の先端正野の知人より鯛来る) 草引く手鷲の声に励まされ (日課である神苑の草引き、鶯の声を聞きつつ)

ふる里の麦秋の碑に風薫る (郷土の俳人故西村泊春の碑にもうで) 傘寿越す葉桜仰ぎつつがなし 緑蔭の神前に立ち鈴鳴らす 手入れ良き紅白朝顔咲きはこる ゆうゆうの老の身に降る白雨かな

一人静か俳句友とす夏灯

☎ 796-8010 八幡浜市五反田

一(一二七七)



短歌

遍路の歌



加藤 敏史 (昭三六中教卒)

私は「日帰り歩き遍路旅」の企画に妻と共に参加、平成二十年三月一番霊山寺を皮切りに平成二十二年十一月八十八番大窪寺まで約一万二千キロを二年八月がかりで完歩しました。どの寺にもそれぞれの歴史があり趣があります。その寺、寺で浮かんだ歌を二首ずつ大先輩高木呉山先生の八十八ヶ寺スケッチに妻の清書で四国八十八ヶ寺参詣記念の歌集を自費出版しましたなお歌集には道中浮かんだ歌や俳句も付録として添えましたが土佐路で詠んだ

あの辺り岩のあるらし白波の 大きく立ちて色の変わるる

は平成二十二年度の愛媛新聞単詩型文学賞推奨を頂くなどの遍路の旅は思い出深いものとなりました。以下記念歌集の中よりの抜粋です。

大師植えし長命杉の古りし幹 あやからんとて幾度も撫ず (第二番極楽寺)

仏様なれども少しなまめかし 観音像の胸のふくらみ (第十番切幡寺)

境内に入りて先ず撞く鐘の音 深山へ幽けく吸われゆくかも (第十二番焼山寺)

天平の御代には高く聳えけん 七重の塔の心礎に触るる (第十五番国分寺)

怖々とのぞきし井戸の水底に わが影見えて心おちつく (第十七番井戸寺)

大龍寺山門越えし上り坂 飄々として風の吹くなり (第二十一番大龍寺)

厄除けでその名をはせるこの寺に 初めて詣りて七十余にして (第二十三番薬王寺)

境内の庭より見下ろす太平洋 台風余波の波のさかまく (第三十二番禅師峰寺)

鶴林寺の鶴に対する亀の寺 縁起の朱印押す人多し (第三十九番延光寺)

茅葺きの古き鐘楼のゆかしくて 一撞きしては余韻味わう

(第四十二番仏木寺) 紅の太き蠟燭三十本 七日の命の炎燃えある (第六十七番大興寺)

本堂の念珠を繰ればころころと リズム保ちて珠の下りくる (第七十六番金倉寺)

山門の対の草鞋の真新し 朽ちし古きも残りしままに (第八十三番一宮寺)

本堂と真後ろに見ゆ女体山 一景となりて美しいや増す (第八十八番大窪寺)

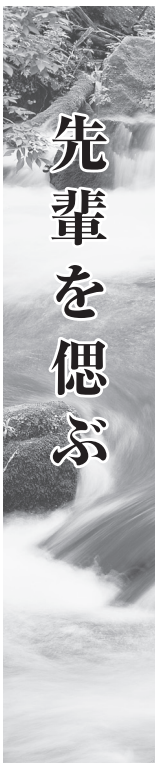
小春日をゆるりゆらりと波の歌 聞きつ歩みぬ牟岐の海辺を 空海と大師名づくはむべなると 御蔵洞より空と海見る

山間に桜は咲けどもくもくと 雨のそほ降る遍路道行く 太き杖ドシンとつけば額より 流るる汗の玉と飛び散る

☎ 799-0711 四国中央市土居町土居

二二七五





先輩を偲ぶ

林傳次先生遺稿集

「把翠」を繙く(五)

「巻頭言」集 、『愛媛教育』誌より

持ち味を生かせ

大正五年一月、教生として附属小学校の五六学年の複式学級に配属されたわたしは、そこで直接芦田先生の御指導をうけることになったが、これはわたしにとって大きな仕合せであった。

始めての授業をすましたあと、御批評をお願いすると、「まあ四五時間やつてごらんなさい。そのあとでいうことがあれば言いましょう」とのこと、五六時間やつたので改めてうかがうと、「あなたの持ち味を生かすようにおやんなさい、持ち味をね。」とたったそれだけであった。

先生が国語教授に堪能な方であることはよく耳にしていたし、またその頃、佐々醒雪博士主幹の文章講義録で、先生の読み方教授、綴り方教授などを読んでいたので、いろいろと細かい注意や懇切な指導をしていただけなものとは期待していただけない、この簡単な

お言葉はやや不満でもあり、いささか拍子抜けの感がしないでもなかった。だが静かに考えてみると、「持ち味を生かす」ということは、そんな簡単なことでも容易なことでもなかった。

一ヶ月あまりで中学校の方の教生に移ったのであったが、その頃には、この言葉をわたくしなりに持ち味を生かすということは、持ち味そのままを肯定することではなく、持ち味を高め、深め、磨きをかけておくことであり、人真似や付焼刃に墮することなく、しっかりと自主的に考え、自主時に行動しなければならぬと訓えてくださったものだと解釈し、理解していたように思う。毎日短い時間ではあったが先生から何う雑談などかこまで会得できたのである。その頃、先生は岡田式静坐法に傾倒しておられたし、また忽滑谷快天師について禅をも修めておられた

ので、さりげない雑談中の片言隻句にも、時に鋭い機鋒感しておられたし、ぐらつと足下をすくわれようと思いをさせられたことも少なくなかったのである。

先生が長い間の公職からすつかり退かれて教壇行脚が始められたのは、大正の終わりに昭和の始め頃であったかと思う。大正十四年の初夏の頃、久し振りで上京した機会に、大塚仲町のお宅に伺ったとき、そういうお考えを漏らされたのを覚えている。愛媛県にもしばしば廻つてきて下さったが、その頃は県庁に勤めていて何かと多忙であったため、お伴をする機会もそう多くはなかった。しかし教壇上に立たれた先生を時たま拝見する毎に、いつも何か新しいものが付け加わっているのに驚嘆し、そして「どこそこで、こういう事があったので」「……にヒントを得て」と説明されるのを伺って、あらゆる経験を国語指導に生かしていらつしやる態度に、頭の下がる思いをしたのであった。しかし、

先生の国語指導の根幹は、十数年前、東京高師の附属小学校の複式学級時代のものであり、それがいろいろの地域で、いろいろな能力のこどもを指導された経験によって、深められ磨きがかかったものであって、つまり先生は先生の持

ち味を一生かかって生かして行かれたのである。すべての力を傾けて一すじの道を歩き続けた人の強さ尊さ、それを身に示して下さったのが、わが芦田先生であった。

〔回想の芦田恵之助〕より

鍛錬と努力
九月以来、中小学校を通じて百人以上、或いは二百人近くの教授を見た。それぞれ特色のあるものではあつたが、今凡てを一つの溶炉に溶かし込んで考える時、一つの色彩となつて浮かんで来るのは、鍛錬の分子の欠乏といふ事である。これがまたやがて現今の教授、いや教育全般に通じての欠陥ではないかとも考へられる。

個性の尊重、それは極めて重要なことであり、また従来の教育の最も欠けてゐた所であらう。気分の尊重、それも相当考慮しなければならぬ事である。子供の興味、それも勿論尊重し考慮しなければならぬ事に相違ない。然し子供の興味がなく、子供の気分に合しないからといふ理由で教授に手を加える事は避けなければならぬ。いや、如何に子供が興味を持たず、如何に子供の気分が合しない事でも――興味を誘発し、気分を醸成する事の教授上必要なるはいふまでもない――彼らに課せられた仕事は飽くまでもこれを強制

祝・叙勲

(平成二十四年四月二十九日)

☆瑞宝中綬章

教育研究功勞 白方 勝殿

松山市祝谷二―三―二十三
昭三十年卒

☆瑞宝小綬章

教育功勞 南 武夫殿

四国中央市土居町小林七〇三―一
昭四十年卒

☆瑞宝双光章

教育功勞 和田 和子殿

松山市岩崎町一―四―二十八
昭三十九年卒

今、教育に思うこと

「二〇一七年愛媛県にて国体開催」に思う



小野植元幸
(昭二九卒)

終戦にて国土は焦土化し「勝つまでは、何も欲しがりません。」全国民一つの目標が崩壊し意気消沈。

昭和二十一年（一九四六年）全米水泳大会にて、古橋廣之進、橋爪両選手が泳ぐ度に世界新連発。新聞、ラジオ放送し「やればできる」感動、勇気、元氣、希望を与えてくれた。

日本復興には、スポーツ振興と文部省が中心に立ち上げ昭和二十一年第一回国民体育大会を開催。当時は衣食住は不足し日本は疲弊しどん底。大会を年一回、夏季、秋季と決定し、都道府県対抗で競技を争い、国民の士気を高め復興の足がかりとした。

第八回（昭和二十八年）大会はじめての四県合同のため、開催者・関係者は心配されたが見事に成

功。天皇杯九位、皇后杯八位。天皇杯は、昭和三十三年（一九五八年）富山国体第七位となり過去最高で「古里選手」が認められるも成績は低迷している。
会報一〇四号に一部第八回国体の様子掲載。
第八回は、本県が主会場。十月二十三日午前十時四十分より、天皇（昭和）皇后両陛下御臨幸にて開会式にはじまり五日間。開会式は（元競輪場）約三万人で超満員。会場外も人、人、人の波。バス電車・汽車も各便超満員。大街道湊町、道後商店街、三津浜商店街も賑わった。
市内は、国体一色。国体の広告塔が松山駅前、堀之内の出入口。バス・電車・汽車等に広告、看板がいたる所にあり盛り上げた。
開催のため堀之内は、大会施設



国鉄松山駅

松山歩兵二十二連隊旧兵舎撤去し陸上競技場、ラグビー場、体育館（現美術館）、別名「貝がら体育館」ともいわれ、今治市出身故丹下健三氏（当時、日本を代表する建築家）斬新な発想で珍しかった。
大会には、県保健体育課の遊津猛、陸協の田辺義治先生を中心に県下の小、中、高校、各大学からも運営にかかり、私もその一人としてボランティアで参加。
大会の六日間、元市営プールのところに事務局があり、各県からの記録を、聞きとりにくい電話でと思いついて出になっている。
その時の腕章、役員章襟章、記録簿を県生涯学習センターへ寄贈。その他電車定期券、タオル（第八回国民体育大会の横書きの文字、炎のマークの入った）を保存



スポーツセンター

していたのだが紛失し、家中さがしている。

昨年の山口国体では、天皇杯二十五位、やっとおとしより十三順位を上げた。

愛媛国体では、優勝を目指し競技力を上げようと、競技団体や行政は開催地などでさまざまな取り組みをし、県保健体育課でも国体係を設置した。国体が開かれると地域のスポーツがこれまで以上に活発になり、全国へ知名度を上げ地域を知ってもらうよい機会である。カウントダウンが進む中、県のイメージアップキャラクター「みきゃん」国体のマスコット。県民一体で成功を願う五年後まで元気でありたいと思う。

☎ 791-3351 喜多郡内子町五百木
一五四

教育現場等から同窓会へ 支援要請依頼について

教育現場等で、同窓会へ支援の要望がありましたら、左記のような内容で、同窓会へご連絡下さい。

1. 支援要請のねらい
 2. どのような事を
 3. 何時頃
 4. 何処で
 5. 誰が、どのような組織が
 6. どのような方法で実施する
- その為、同窓会からの支援を要請したい。

要請連絡は、左記の所にメールして頂くか、FAX又はお手紙をお送り下さい。

教育学部同窓会 インターネット 開設しています！

dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

↑
メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

「ゆとり教育」 検証なく転換



村上 公宣
まさのぶ
(昭三五卒)

ゆとり教育は学力偏重ではなく、社会に出て主体的に活動できる柔軟な発想の子供を育てる為の教育として、現場の我々は受け入れてきた。学校ではゆとりの時間として「創意の時間」を設け、体験的な学習を中心に行った。最初は土曜日の隔週休日も始まって、やがて全週休日となった。実践には子供達の変容に手応えも感じていた。ところが、文部大臣が代わったとたんに、真の学力の検証もされないままに、ゆとり教育が学力を下げたとの見解で、学力偏重路線へと方向転換が図られた。このことで学校は大変混乱した。

当時を振り返ってみると、確かに地域や家庭の教育力には問題点もあった。休日を利用して、キャンプやサイクリング等で過ごした家庭もあったが、他の家庭もみんな同じであったかと言うとはなはだ疑問だ。学校が休みの土曜日の家庭では親は仕事の為に不在で、残された子供達は当時流行ったファミコンゲームに夢中になっていた者も多く居た。地域や家庭からは、これでは何のための休日かと言う批判も出てきた。このよ

うな現実から見ると、当時の文部省は地域や家庭の教育力の育成にはあまり力を入れてなかったと思う。

そんな反省から、私は地域の子供育成の場として活動できる児童館を作ってもらいたいと町に働きかけて二つの児童館を作った。現在、菊間児童館と亀岡児童館は子供達の放課後や休日の活動の場所になっている。児童館や公民館では料理教室や生け花教室、昔の遊び教室など八つの体験学習の場を子供達に提供している。

越智郡にはまだ児童館が無い町村も有る。その一つに魚島村(現在は上島町)が有る。平成五年から三年間私が勤務した魚島は瀬戸内の小さな島である。小学校は当時児童数十二名の小規模校であった。勿論児童館は無いが、島の人たちは子供を皆で育てていた。良い事をして褒めることは勿論だが、悪い事をしていたら他人の子供でも、自分の子供と同じように分け隔てなく叱るのである。当時のS村長はよく次のように言っていた。「魚島は生活環境や教育設備も整った瀬戸内の楽園である。小規模校にこそ教育の原点がある。教師に叱られた事に対して文句を言う、モンスターペアレンツも居ない。魚島の保護者は学校に全幅の信頼を寄せている」と。勿論いじめや登校拒否は皆無であった。国からの指導を待っているので

はなく、地域や保護者が子供達に「生きる力」を付けることが大切なのである。この様な教科学習とは違った体験は生きた知識となつて、将来の近代技術の開発にも役立つと言われている。当時の文部省はこの様な地域や家庭の教育力の育成にはあまり力を入れてなかったと思う。今の文科省の考えではどうであろうか。近い将来、土曜休日も無くするのではないかと思うのは私だけだろうか。

平成二十四年四月三日の新聞に「県学テ基礎力判断」との見出しで、県教育委員会が二〇一六年度に全国学力テストでトップ10入りを目指し、一二年度から独自に小中学校でテストを実施する事について、教育長は「子供に過度な競争を強いてはいけない。現場が混乱しないように、テストで基礎学力の定着度合いを判断する材料としたい」と述べた、との記事が出ている。

ここで最初の頃の学力テストについて述べてみる。五十年ほど前にも全国学力テストが実施された。各学校は良い成績を取る為に一生懸命に努力をした。しかしその努力たるや異常であった。私も当時の教員として懺悔の気持ちも込めてその時の様子を述べてみる。
一、テスト対策のために毎日放課後遅くまで練習問題でドリルをした。
二、テスト前日校長が、テストの問題は金庫の中に有るので見た

い人は見ても宜しいと言った。
三、テスト当日は席替えをして、成績の良い者と悪い者との席を並べた。噂では成績の悪いものに体調が悪そうだから明日は休みなさいと言った教師も居たとか。

四、田植え方式を行った教師も居た。田植え方式とはテスト中に机間巡視しながら子供の答案を見て、誤答の問題を田植えするように指で押さえるのである。

五、採点は学校から代表の教師が一つの学校に集まってするのであるが、聞いた話では消しゴムを持参するようにと言われたとか。テストの成績が特に良かった教師が抜擢されて教頭になったとの噂も有った。ある学校で、音楽の平均点が百点だったのに驚いた。いかなる指導がなされたのかは知る由も無かったが……。音楽主任の私のクラスの音楽の点数は六十点台の平凡な点数だった。

今回実施される学力テストはこの様な過激な競争心を煽らないよう心して実施して欲しいものである。最初に述べたように、私は、学力偏重ではなく、社会に出て主体的に活動できる柔軟な発想の子供を育てることこそ真の教育だと思ふのである。教育は国家百年の大計である。もっと長い目で見て欲しいと声を大にして訴えたい。

会報の送料納付 について

記

平成二十四年二月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号

送り先 〇一六四〇一七二七五四
松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもつて、かえさせていただきます。

799-2301

今治市菊間町佐方

一三三二

同期会

同期会に寄せて



松木ヒサ子
(昭二五青年師範)

同期生全員が八十歳を迎えた、平成二十三年十一月一日、道後「にぎたつ会館」での楽しい集いでした。ふり返って見ますと、私は男子二クラス・女子一クラスの百二十名位でした。年齢差は大きく男性の中には太平洋戦争の戦火の中をくぐって来た方、学徒動員で軍需工場で働いた体験を持った方、地方の青年団活動のリーダーだった方、女子の中にも結婚されたことのある人もいるし、三月やと女学校を卒業したばかりの十六、七歳の乙女もいて十歳位の年齢差がありました。

学校生活もまだ戦後の傷跡を残しており、校舎は焼けてはいませんが設備も不十分で、寮生活の方は食糧難で困っていたし、通学生も当時の国鉄や城北線のがたごと電車に乗り、松山空襲で焼け跡の残る夜道を歩いたりしての三年間でした。



初めて習った横澤先生の英語は初級か中級の授業です。農業実習もありました。護国神社近辺の田植ではヒルに吸い付かれたり、五木の果樹実習園まで歩いていきました。三農七勉でしたが、その中でも運動は盛んでした。野球・バスケット・バレーボール・陸上競技にも熱を入れました。陸上競技は学校周辺の道路を走ったり、松山高の運動場に走りに行ったりしました。バレーもバスケットも運動場での練習でしたが、根性のある練習をしたものです。そんな中から体育の教師として巣立った人も何人かいました。私もその中の一人です。

さて同期会は、学生時代のよき日に戻り、今あることを喜び合うためにやるのです。勉強に運動に



情熱を燃やし、恋もすれば泣きもした青春の日々に戻りたいため、八十余歳になっても「〇〇さん」「〇〇ちゃん」と呼べるのはこの日より外に無いのです。

同期会発足当初から会長は満田泰三さんです。今回は松木ヒサ子がお世話することになっていました。満田さんから「貴女の思うようにおやり」と言われていましたので、多くの人来てもらいたい、楽しかった、来てよかった、次も来たいと思つて戴ける会にしたいとの思いを込めて、日時・場所・時間の案内状を差し上げる。

すでに物故者男性二十八名、女性六名あまりにも多すぎます。参加、不参加の連絡が来ます。体調不調で参加出来ません、入院中です、代筆で〇〇はホームに入つています。連絡の無い方等々、嬉しさ悲しみに胸が痛みます。参加者男性十四名、女性七名計二十一名これが精一杯のところ。女性は一泊旅行にしていますので、県外からも二名の方が来てくれました。うれしいです。

十一月一日十二時三十分開始、先ず東日本大震災で尊い命を亡くされた方と、同期の物故者のご冥福を祈り黙祷を捧げ、司会も会長の挨拶もご馳走を前にしては短めに、お酒がはいり肩の荷がほぐれた頃満田会長の義農万歳が始まりました。八十歳とは思えぬ身の軽や



かき、振りの良さ、衣装のピンクがよく似合います。松前シルバークラブで習ったとか、拍手喝采でした。八十の手習いとは言えませんが、やればやれる。会長の心意気を感じさせられます。素晴らしいです。

皆さんで歌おうでは「誰か故郷を思わざる」から始まり「青い山脈・リンゴの歌」へと、一人では歌わない歌えないが皆となら歌えるじゃないの、急遽女性コーラス部を編成し「荒城の月と花嫁人形」を歌う。声が若いと男性から褒められ嬉しいです。カラオケもダンスもはいり場は一挙に盛り上がりました。美味しい料理とお好みのお酒を味わいつつ、次回の話しを持ち出しますと「毎年やろう」と

いう事になり、十一月一日にぎたつ会館で、世話人は松木ヒサ子と決まりました。まあいいじゃないですか、お引き受けしましょう。最後はやっぱり歌で納めよう「故郷」を歌い「星影のワルツ」は皆さんで手を取り合い、肩を組んでの合唱でした。「楽しかった、毎年やりたい」と言ってくれました。ありがとうございます。感謝で一杯です。

終わりにりましたが、今回参加できなかった方々のご健康と、ご多幸をお祈り申し上げます。

☎ 799-2430

松山市北条辻

二〇九一三



在京同期会 今年も八名参加



谷口 敬
(昭二三卒)

平成二十三年も押し詰まった十二月十四日、恒例の同期会を上野駅近くの「鮒忠」で開催した。時期を合わせて大洲から上京の久保田仁郎君を加え、井原茂幸・高橋立身・武田敏文・山之内登・谷口敬の常連と加藤幹君夫人・玉田泰太郎君夫人の八名の顔が揃った。

私達同期生の関東在住者は最多時二十名を数えたが、井上君松山に返り加藤君は現職中死去、その後玉田君・恵美須君、昨年上岡君・三井君、今年は藤野君・水野君・土居君と他界者加速で淋しくなっている上に、石水・藤本・名本・田幡・近藤・徳田の諸君は体調不良で出席困難という現状の中での七名十一名の参加という次第。

十一時半の定刻全員揃ったところで開会、谷口より会員の現況を報告して黙祷、続いてお互い今日の出席再会を祝して久保田君の音頭で力強く乾杯！鍋中心の料理と各自好みの飲み物を口にしながらの歓談に移った。

記憶力・活力共に衰えを知らぬ久保田君を迎えたことで、話題の広がりや活気が増し、女性の参加で和やかさも倍増、いつもの同期会とは一味ちがった雰囲気での進行となった。特に名古屋勤労動員や女子部での授業再開・音楽グループの県下演奏旅行・トラック運転など話はずみ、各自の思い出をより鮮明にすることができた。

二時間半の予定時間はアツという間に過ぎ、一同揃っての写真撮影のあと、来年も十二月十四日を予定、再会を約して散会した。

お互いこの年になればあちこち体の故障は致し方なしだが前向きに生きる意欲まで失いたくはない。出席者から「もうやめようや。」の声が出ないのは、常連のメンバーにとってはこの同期会出席が、日常の健康管理や活力維持の目標になっているからだと思われる。



放送大学十月入学生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十四年十月入学生を募集中です。

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

- 放送大学の大学院を利用して、**専修免許状**の取得が可能です。
- 放送大学の科目を利用して、**特別支援学校教諭免許状**の取得が可能です。
- 放送大学の科目を利用して、**司書教諭資格**の取得が可能です。

可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、**教員免許更新**が可能です。

資料を無料でさし上げておられます。お気軽に、**愛媛県学習センター**にご請求下さい。



放送大学

知識が人生を変えていく
一科目からでも学べます

平成24年度10月入学生募集中！
(平成24年8月31日まで)

愛媛学習センター
(愛媛大学内)
TEL 089-923-8544



グアテマラ通信 (2) No.11 (2012/1/10)

シニア海外ボランティア：杉山 允宏 Masahiro SUGIYAMA

vividmasa@live.jp メールアドレスのsugiyamaがmasaに変わりましたので訂正してください。

住所：#807 Edificio Santorini las Américas 1ª Avenida 6-24, Zona 14, Guatemala, GUATEMALA, C.A.

国番号：502 (携帯：(502) 4608-7072、自宅 (502) 2367-5899)

(1) 第1回杉山柔道選手権大会を開催する (2011年11月25日) 2組の投の形が披露された



↑イサベルによる準備運動：準備した紅白の幕が雰囲気を醸し出している。 ↓全員集合↑ 開会式：国歌斉唱



(2) 第2回杉山柔道選手権大会を開催する (2011年12月9日) 投の形・極の形が披露された
年齢別：男女別リーグ戦、賞状、賞品、参加賞、功労賞授与。昇段者・昇級者披露



先輩・現役との絆

愛媛師範学校・愛媛大学ラグビー部

八十年の歩み



O B会長 金子 数美
(昭二五年卒)

栄光と伝統ある愛媛師範学校・愛媛大学ラグビー部創立が昭和七年九月下旬で平成二十三年度で八十年経過しました。そこで大きい佳き節目である八十年の記念大会の開催と長年の念願だった記念誌の発刊をする事が出来ました事諸先輩・O B・O G・関係者の方々のご協力・ご支援に依り発刊する事ができました事・皆さんと一緒に喜び、お礼を申し上げたいと思います。

この八十年記念誌を基礎資料として百周年の大きい節目に豊富な資料の収集を関係者の感想・意見等を網羅し充実した内容の記念誌の発刊を期待しています。

昭和七年九月下旬故有田聖(昭和八年卒業)大先輩が創部し初代の部長になり故二宮軍四郎(松中・師範二部)氏がキャプテンとして愛媛で松山高등학교・松中・松山クラブの次の四番目に創立しました。創立当初は道後グラウンド・師範グラウンドで練習・試合も健康闘しい結果を残していました。

故有田聖大先輩が今治市別宮町で不動産の営業をしていましたとき先輩の広瀬善久氏と訪問した時ラグビー部発足の時の様子や写真や資料を神棚に置いていました。ラグビー部の資料はか

校舎のすぐ西側がグラウンドで十五時半位に授業が終了階段の下が部室で着替えてグラウンドへ練習(月から土曜迄暗くなるまで汗を流し練習に励んでいました。帰途は日赤前に焼芋屋が有り良く食べたものです。

当時は農専・経専とよく練習試合・公式戦もやり試合の経過は、昭和二十三年に全国師範学校大会に優勝し昭和二十四年二十五年と二年連続愛媛社会リーグで優勝しました。

当時の部長は故野村正三郎(愛大名誉教授昭和四十四年三月退職初代部長)部長は部・部員に対してよき理解者であり指導・協力・支援をよくして頂き心より感謝しています。そのお礼としました喜寿のお祝いをにぎたつ会館で盛大に開催しました。部長は当時樋又にお住いだった様に記憶しています。

二代目部長は(故河野昭教授)平成七年退官しています。三代目は伊福誠現在指導して頂いています。大学院理工学部研究科教授で活躍中です。

昭和五十七年、松中・現東高五十年の記念行事で教員クラブ対松中・東高戦のお祝いの試合が真夏の八月九日の十二時東高グラウンドでキックオフで砂地のグラウンドで開催されました。その後平成十八年迄に四十回試合をし教員チーム・松中チーム共に二十勝二十敗で両チーム優勝を閉じました。翌年からは東高VS愛大O B戦を開催する事になり本年で六回目となる予定です。

平成十年戦後初の中四国代表として地域対抗大学選手権瑞穂グラウンドの全国大会に出場し順天堂大学と対戦し15対43で惜敗しました。

平成十五年二回目の全国大会(瑞穂グラウンド)出場し武蔵野工業大学と対戦大敗しました。その後一昨年迄は部員の減少で単独チームの編成が出来ず

試合の時には医学部のチームから助け人を借りて出場していました。冬期等は五・六名位しか練習していない年が何年か続き冬の時代でありました。

平成二十三年度は一回生が七名入部し二十名の部員になり単独チームで試合が出来た様になり、マネージャーも九名になり大所帯に成り練習に試合に気合いが入っています。

平成二十四年度は現役七名マネージャー二名入部し総計二十七名になり二年連続単独チームが出来て全国大会(瑞穂)を目指し日々猛練習中です。

先輩の方々は暇な時にはグラウンドに来て頂いてご支援・ご指導をお願いいたします。

790-0924
松山市南久米町
三七五三三



昭和10年の対愛媛師範戦
(11月10日道後にて)

昭和十一年から第一回選手権大会が開始され第一戦が一月十二日に行われ、師範は高商と対戦した。前半は3-3の接戦、後半は高商のフォワードが殆どの球を支配したので敢闘した愛媛ラグビーは20-8負けた。



昭和16年の対愛媛師範戦
(5月4日愛媛師範にて)

第七回愛媛選手権大会は、一月(昭和十七年)に道後グラウンドで開かれ、高商は、十八日の準決勝戦で松山高校を33-0で降し、二十五日の決勝戦で、愛媛師範を11-5で破り、優勝した。県選手権大会は、戦争のためこの第七回でもって中止された。愛媛師範ラグビー部創立が昭和七年九月以後終戦迄の間試合・練習に汗を流し技術を磨いた札の辻のグラウンドの様子



昭和24年10月の対愛媛大学戦
(愛媛大学にて)

第十一回愛媛選手権大会が一月(昭和二十五年)愛媛師範グラウンドで開かれた一月二十二日の一回戦で高商に6-5の接戦で惜敗した。昭和二十三年より使用開始、草原のグラウンドだった。

近況・現役へのメッセージ

○宇野 浩二

〈四国コカ・コーラボトリング株式会社 松山営業所 勤務〉

人数をたくさん集めて、もっともっと強いチームを目指してください！

○佐川 誉

〈愛媛大学 法文学科目等履修生（教員志望）〉

仲間を信じて、今の一瞬を大切に過ごしてください！

○重本 丈治〈株式会社神戸製鋼所 勤務〉

部活、バイト、遊びに勉強もそこそこ。頑張ってください！応援しています！

○徳田 翔士

〈八幡浜市役所 総務企画部税務課固定資産税係 勤務〉

社会人になると、なかなかラグビーが出来なくなるので、今、思いっきり楽しんでください！

○坂東 大輔〈愛媛県立東予高等学校 勤務〉

やればできる！頑張ってください！

○樋口 衡平〈京都大学 大学院博士後期課程2回生〉

愛媛大学ラグビー部80周年、おめでとうございます。私は2回生になってからラグビー部に入部し、初めてラグビーボールに触れてからゲームを楽しめるようになるまで、皆と練習に励んだことは貴重な思い出にあります。九州での合宿や川崎医療との合同練習、また、選手の皆が大舞台に立った地区対抗大会等、個性的で頼りがいのある先輩方、同期、後輩、マネージャーの皆さんとは多くの経験を共にしました。在学中の皆さん、今後のご活躍を祈っております。

○藤田 希〈兵庫県内小学校 勤務〉

チームワークで頑張ってください！

○松岡恵利奈〈愛媛県立今治特別支援学校高等部 教諭〉

思いっきり熱くなってください！



平成 17 年 11 月 6 日



平成 18 年 11 月 3 日

平成23年度現役



四国インカレ（H 23. 5. 15）於 愛媛総合運動公園



山越グラウンドでの練習風景

地域にあって輝く愛媛大学を

ボランティア活動

大学時代に是非経験してほしいものの一つがボランティアです。ボランティアはあくまでも自発的な活動であり、義務でも強制でもありません。個人の自由な意志で、考え、発想し、行動するものです。ただし、自己の利益を目的とするものではなく、利他性が求められ、その活動や目的が社会に開かれたものである必要があります。

ボランティアでは、教育、文化、スポーツ、国際交流、環境問題など幅広い活動を通じて、授業だけでは学べない多くのことを体験できます。他者のために自分を活かすことは、自分づくり、友達づくりにも役立ちます。

是非、積極的に参加してみてください。

ボランティアの紹介・相談については、学生支援課（学生サービスステーション）で受け付けています。

また、学生サービスステーション（北西側）の掲示板には、ボランティアコーディネーター（学生）による、ボランティア情報を掲示していますので、利用してください。



愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）

愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）は、教職員の支援を得ながら、学生が自分たちの問題を自分たちで解決していく、愛媛大学公認のボランティアスタッフです。ピア@カフェを活動拠点として、後輩・仲間・留学生。障がいを持った学生、そして将来愛媛大学を目指す高校生の支援を行っています。元々は草の根的に行われてきた学生による学生支援活動のさらなる発展を目指して、教職員が支援することで立ち上がりました。

詳しい情報はこちら

SCVホームページ



学内清掃活動



新入生への支援（相談）



留学生への支援

愛媛大学のボランティア団体

現在は以下の9団体で構成されています。

- 愛媛大学学生メンターズ（ESMO）
- 国際交流コーディネーター（ICO）
- 障がい学生支援ボランティア
- メディア・サポーター出版部（MSPT）
- 図書館サポーター（LS）
- ECOキャンパスサポーター（ECS）
- ボランティア・コーディネーター（AIVO）
- メディア・サポーターズ映像部（MSBT）
- キャリア・サポーター（CS）

お問い合わせ先

教育学生支援部学生支援課

ADD 〒790-8577 松山市文京町3番

TEL 089-927-9165

フレンドシップ事業（教育関係者向け）

はじめに

フレンドシップ事業地域連携実習とは、愛媛大学の近隣を中心とした学校・教育機関の協力のもと、学生の主体的な参加による教育体験活動を通して、教育実践に必要な知識や技術を高めるものです。大学1年生から大学院生まで、学校の要望に応じてさまざまな形で協力をさせていただいています。

主な事業内容

実施に当たっては、大学教員、事務担当者及び申込校とで連絡・調整・相談等を行って進めます。

- 幼稚園から高等学校までの多様な授業・保育でのアシスタント
- 特別に支援の必要な児童・生徒への補助
- 運動会や学園祭の補助
- 部活動や補習などの放課後の学習への支援
- 学生が主体的に企画する休日の学習活動



対象校

- 愛媛大学教育学部と連携協定を結んでいる市町内の学校園
- 特に要請のある県内の学校園

費用

基本的には、ボランティア活動です。松山市から距離のある学校についてはご相談します。



申し込み方法

別紙様式「地域連携実習提供事業FAX送信状」により、愛媛大学教職支援ルーム担当宛にFAXでお申し込みください。メール添付でもお受けいたします。なお、希望日時などが調整できない場合は、お断りすることがありますので、ご了承ください。

【お知らせ】教職支援ルームでの受付は、平成24年4月初旬からとなります。

教育体験枠について

学生達は、大学の講義を受けながら、その空き時間に体験活動に参加しております。現場からの要望により、大学の時間割内に教育体験枠を設け、学外活動を行うことができるよう配慮しております。具体的な時間は以下のようになっています。

	前期	後期
1年生	木曜日 12:50～16:20	木曜日 10:30～14:20
2年生	月曜日 8:30～12:00	月曜日 10:30～14:20
3年生	木曜日 10:30～14:20	火曜日 10:30～14:20
4年生	火曜日 10:30～14:20	金曜日 10:30～14:20



問い合わせ・申し込み先

愛媛大学 教育学部 教職支援ルーム
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL: 089-927-9483
FAX: 089-927-9483
E-Mail: chiikirenkei@ed.ehime-u.ac.jp

会報送料・寄付者名

平成24・1・20

宮内守繁 金子六女 堂山佳美 石崎蕊 武田健 岡田豊 小林辻枝 一色邦利 荻山義男 金子房江 秋山美世子 小林征子 森弘子 武井鬼代美 大野全憲 佐藤全良 稲垣健治 渡辺淳美 高瀬敏明 栢野陽子



原稿募集

次号 第百十五号 短くても結構です。多くの方々のお気軽な寄稿をお待ちしております。

○「会員の声」・「今、教育に思うこと」について、ふるってご投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの集会や活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩・絵手紙等)について

★ 会員便り 1旅行記 4この頃思うこと 2季節便り 5忘れ得ぬ人など 3教育雑感

※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会で選ばさせていただきますので、ご了承ください。

★ 原稿切 十一月三十日 発行 二月一日 予定

★ 依頼者以外は千二百字厳守 四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

★ 写真 筆者の顔写真を添付してください。顔写真以外で内容に関連した写真もあれば送ってください。

敬弔

(物故会員)

Table with columns for death date (死亡年月日), name (氏名), and funeral date (葬日). Includes names like 一色キヨ子, 山本英作, 山本健作, etc.

※訂正してお詫びします 会報百十三号記載の 23・9・11 一色キヨコ 最上段右のように訂正します。

平成24年度

支 部 長 会 報 告

1. 日 時 平成24年6月9日(土) 10:00～13:00
2. 場 所 大学会館(松山市文京町3 愛大構内) 2F大会議室

3. 日 程
- (1) 開 会 あいさつ 会長・学部長
 - (2) 各支部長あいさつ
 - (3) 議長選出
 - (4) 議 事
 - ア 会則改正について
 - イ 役員改選に関する件
 - ★ 退任役員表彰
 - ★ 新旧役員あいさつ
 - ウ 平成23年度行事報告
 - エ 平成23年度決算報告・監査報告
 - オ 平成24年度行事計画
 - カ 平成24年度予算案審議
 - キ 県内外支部活動について
 - ク 第13回懇親会について
 - ケ 支部活動と助成金について
 - コ その他事務連絡

(内規に関する事項・会報発送・会館利用・名簿等)
 - (5) 閉 会 あいさつ 副会長



4. 主な話し合い事項

- (1) 支部活動の活性化について

各支部長からの提言を元に、支部活動をいかに活性化するかについて時間を掛けて話し合われた。県下のトップを切って、21年度、伊予支部が「はばたけ伊予っ子」の旗印の下伊予支部同窓会主催、会員一人一役で「伊予地区児童生徒の芸能・文化活動」の発表会を開催し、大成功を納めた事例をもとに話し合った。各支部とも、予算が位置づけられているので、積極的な活動を公民館等と協力して計画してみてもとの提言があった。

- (2) 教育学部と同窓会との連携活動について

今年も、予算にも位置づけ、教育学部では「サポーター制度」を設け、同窓生に働きかけ、講師になってもらい「コミュニケーション能力の育成」をテーマに、学生達に講演している。非常に学生に好評であり、今後とも学部と同窓会との絆を強めるため、同窓会が積極的に協力をしようとの意志決定した。

- (3) 「支部活動特別助成金」について

支部活動をより活性化するための具体的な方策として、上記にある「支部活動特別助成」を配慮している。その為の資料として、「伊予支部活動の資料」「支部活動特別助成金交付要綱」と「申請手続き」を紹介した。また、同窓会報でも呼びかけをしている。

- (4) 今年度は、県外から、関東、京都、岡山の各支部長の参加があった。

兼頭氏、河野氏、岡田氏から建設的で熱いメッセージを頂いた。特に、有為な卒業生をどんどん送って欲しい。その為の支援は惜しまないとのことだった。

- (5) 今年度は、**第13回同窓会懇親会**が8月25日(土)に「ひめぎんホール」にて開催されるので、この会に参加された支部長、理事全員に、案内状、チケットをお渡しし、この会報114号にも案内状と振込用紙を入れて、会が盛会になるよう、全会員に積極的に呼びかけようとの意思統一を図った。

以上

平成24年度 行 事 計 画

4. 6 (金)	平成24年度入学式	学部生 237名 院生 45名
4. 18 (水)	平成23年度会計監査	平成24年4月16日(月) 監査実施
5. 11 (金)	第1回常任理事会	役員改選・同窓会活動・支部活動について
5. 26 (土)	第1回理事会	平成23年度行事、決算報告 平成24年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
6. 7 (木)	学部サポーター制による講義	浜田純子氏「魅力的な大人のマナー講座」
6. 9 (土)	支部長会	平成24年度本部役員改選 平成23年度行事、決算報告 平成24年度行事計画及び予算審議
6. 14 (木)	第1回編集委員会	会報114号 校正
7. 1 (日)	会報114号発行	8,800部
7. 26 (木)	第2回常任理事会	後期同窓会活動・支部活動について
8. 3 (金)	第2回理事会	同窓会懇親会運営推進対策について
8. 25 (土)	第13回教育学部同窓会懇親会	ひめぎんホール真珠の間にて実施予定
9. 5 (水)	第3回常任理事会	懇親会反省報告、後期諸計画・次年度活動について
11. 10 (土)	愛媛大学ホームカミングデー	教育同窓会参加
11月下旬	学部サポーター制による講義	
12. 8 (土)	第4回常任理事会	後期の諸計画・次年度諸活動について
1. 12 (土)	第3回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
1. 12 (土)	第2回編集委員会	会報115号 校正
2. 1 (金)	会報115号発行	8,800部
3. 4 (月)	第5回常任理事会	24年度行事活動反省、次年度重点活動目標設定について
3. 23 (土)	平成24年度卒業式	卒業生学部生 名 院生 名

平成23年度 決 算 書

平成24年度 予 算 書

(収入の部)

(単位：円)

費目	予算	決算	増減	摘要
1. 会費	0	0	0	
2. 終身会費	5,240,000	5,120,000	△ 120,000	入学者256名
3. 雑収入	250,000	242,977	△ 7,023	利息、送料・寄付金等
4. 繰越金	3,271,950	3,271,950	0	
計	8,761,950	8,634,927	△ 127,023	

(支出の部)

費目	予算	決算	増減	摘要
1. 会議費	750,000	270,770	479,230	支部長会・理事会
2. 旅費	650,000	375,300	274,700	支部長会
3. 印刷費	1,600,000	1,146,000	454,000	会報年2回
4. 通信費	650,000	351,510	298,490	会報発送、連絡費
5. 慶弔費	150,000	109,452	40,548	
6. 給与費	800,000	800,000	0	
7. 備品費	700,000	51,340	648,660	
8. 消耗品費	470,000	80,569	389,431	封筒、ラベル・コピー代等
9. 支部助成費	650,000	542,600	107,400	
10. 卒業記念費	400,000	374,850	25,150	文鎮(ペーパーウエイト)
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 支部活動支援費	600,000	100,000	500,000	岡山新支部発足
13. 学部活動支援費	500,000	349,836	150,164	
14. 雑費	200,000	86,845	113,155	
15. 予備費	391,950	0	391,950	
計	8,761,950	4,889,072	3,872,878	

(収入の部)

(単位：円)

費目	本年度	前年度	増減	摘要
1. 会費	5,240,000	5,240,000	0	入学者240名+20名
2. 雑収入	250,000	250,000	0	利息、送料・寄付金等
3. 繰越金	3,745,855	3,271,950	473,905	
計	9,235,855	8,761,950	473,905	

(支出の部)

費目	本年度	前年度	増減	摘要
1. 会議費	750,000	750,000	0	支部長会・理事会・懇親会
2. 旅費	700,000	650,000	50,000	支部長会・理事会・懇親会
3. 印刷費	1,650,000	1,600,000	50,000	会報年2回・懇親会
4. 通信費	500,000	650,000	△ 150,000	会報発送、連絡費、懇親会
5. 慶弔費	200,000	150,000	50,000	
6. 給与費	800,000	800,000	0	
7. 備品費	500,000	700,000	△ 200,000	
8. 消耗品費	370,000	470,000	△ 100,000	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支部助成費	650,000	650,000	0	
10. 卒業記念費	400,000	400,000	0	文鎮(ペーパーウエイト)
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 支部活動支援費	600,000	600,000	0	
13. 学部活動支援費	500,000	500,000	0	
14. 積立費	1,000,000	0	1,000,000	
14. 雑費	200,000	200,000	0	
15. 予備費	165,855	391,950	△ 226,095	
計	9,235,855	8,761,950	473,905	

平成 24 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本	顧問	三浦和尚・奥定一孝		監事	後藤陽三	常任幹事	菅田 顯
	会長	高橋治郎			矢野裕司		
部	副会長	立入 哉	峯本高義	村上朋子	友近温壽	山本千鶴子	
	理事	山本周三	菊地祥裕	山下雅司	菊川國夫	満田泰三	
		村上嘉一	鎌田サチ子	垂水葉子	石丸 淳	阿部 晋	
		石尾憲弘	和田和子	烏谷真由美	菊池晶子	替地和人	
		辻井芽美子	斉藤照夫	安田智美	武田恵奈	白石久美子	
	白石貴士	在間正樹	片岡香織				

支 部 名		支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
四国 中央 市	川之江・新宮	吉田 太	川之江北中	原田 尋	金生第二小	高木 淳	金生第一小
	伊予三島	品川弘樹	豊岡小	河村智恵美	中之庄小	細川真弓	中曾根小
	土居	鈴木恵子	長津小	高橋和紀	関川小	山川小百合	土居小
新居浜	横井敏行	大生院中	西原泰介	中萩中	菅 知子	新居浜小	
西条	伊藤 俊	西条東中	黒川幸彦	西条東中	藤原知子	飯岡小	
東予・周桑	磯 明	周布小	酒井敦夫	田野小	越智恵里子	壬生川小	
今治	八木良二	波止浜小	真鍋毅迅	今治西中	井原 涉	波方小	
今治・越智	菅 昭彦	亀岡小	渡邊建男	大三島中	森 昇	上朝小	
松山・北条	城本すみ江	立岩小	緒方義彦	浅海小	堀内壽夫	北条南中	
松山	後藤陽三	桑原小	白石幸枝	潮見小	森 健	津田中	
東温	高須賀秀喜	拝志小	本田隆彦	北吉井小	山田眞市	東谷小	
伊予	田中勝子	北伊予小	山田智香子	伊予小	吉田京子	中山小	
上浮穴	渡部哲也	面河小	段王繁嘉	面河小	高田 誠	久万中	
大洲	岡田廣温	大洲小	横田 宏	喜多小	餘家幹子	大成小	
喜多	津國巳代子	御祓小	菊地啓二	小田小	芳野妙美	石畳小	
八幡浜	井上庸子	喜須来小	道岡喜好	宮内小	大西逸子	舌田小	
西宇和	辰野晴美	九町小	末光礼子	三崎中	小倉和芳	二見小	
西予	佐藤光博	明浜中	勇 功	俵津小	中村米貴	明浜中	
宇和島	都築高秀	下灘小	石丸光計	御槇小	清家美津子	吉田小	
北宇和	西田久仁夫	日吉中	永井 悟	松野西小	古谷玲子	三島小	
南宇和	若田 正	僧都小	安岡宏次	御荘中	濱見陽計	長月小	
附属	武田恵奈	附特別支援					

外 支 部	東京	兼頭吉市	山下正洋	森 孝枝
	京都	河野直樹		
	大阪	神垣哲雄	本宮 久	杉山容子
	神戸	木原孝造	平山 昇	加登康智
	岡山	岡田 潤		

編集委員	菅田 顯	峯本高義	菊川國夫	村上朋子	山下雅司
------	------	------	------	------	------

愛媛大学と山形大学合同 第2回卒業・修了合同美術展覧会を開催しました

昨年に引き続き、愛媛大学と山形大学で「第2回卒業・修了合同美術展覧会」をサテライトオフィス東京にて開催しました。

【展覧会概要】

□■会場：サテライトオフィス東京（東京都港区芝浦3-3-6キャンパス・イノベーションセンター）

□■参加者：25名

愛媛大学教育学部芸術文化課程造形芸術コース：7名（内1名は作品のみ）

山形大学大学院地域教育文化研究科文化創造専攻造形芸術分野：2名

山形大学地域教育文化学部創造学科造形芸術コース：16名

□■開催期間：2012年3月3日（土）～3月7日（水）

3月2日：搬入・設置、ギャラリートーク、交流会

3月3日：オープンセレモニー

3月4日～6日：会場の受付や案内

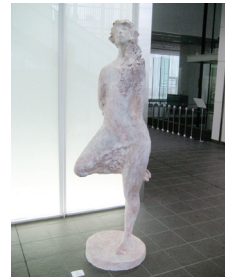
3月7日：13時から搬出・撤去、サテライトオフィス内の現状復帰作業



オープンセレモニーの様子



ギャラリートークの様子



作品①



作品②



作品③



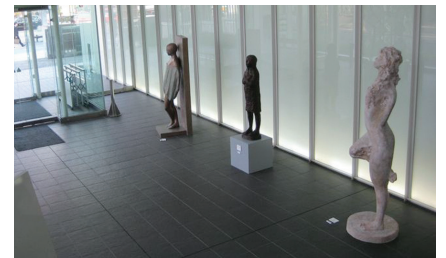
交流会の様子



会場の様子①



会場の様子②



会場の様子③

【展覧会を終えて】

本展覧会は両大学の学生間の交流だけでなく、他大学の卒業制作展や美術館での各種展覧会を見る時間を設けることで、卒業研究の自己評価の機会を設けるとともに、愛媛大学での教育的取り組みをPRする機会となりました。特に今年の両大学の学生は交流会等を通して、親睦を深めている姿が見受けられ、互いの作品や各大学での取り組み、地域の特色についてなどの意見交換を行っており、卒業研究の自己評価の場として十分な成果を得ていたと思います。

展覧会を終えて、開場時間や広報等の課題がみえてきましたが、来年度に向けて、学生の卒業研究を深めるだけでなく、地方大学における教育の成果等を発信する場として本展覧会の一層の充実を図っていきたいと思います。最後になりましたが、本展覧会を開催するにあたりご尽力を頂いた関係者各位にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。